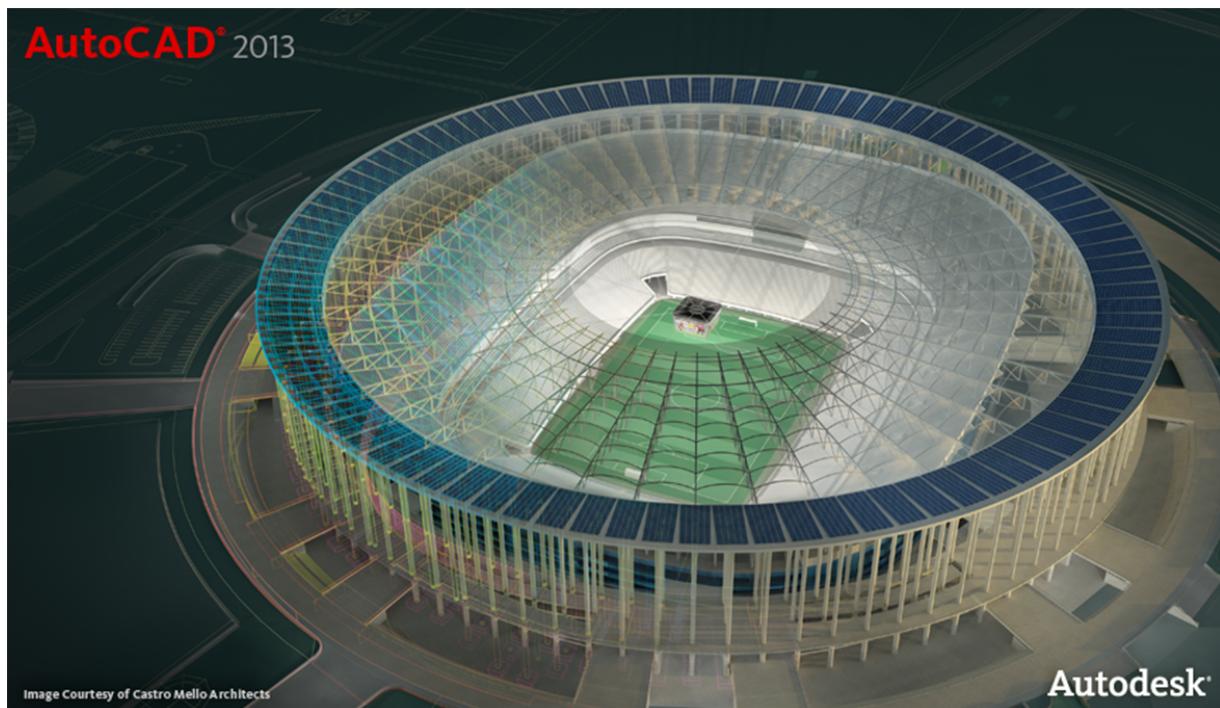


AutoCAD 2013

新機能概説書

統合設計環境を実現する AutoCAD® 2013 の強力なツールを使用すれば、モデリングと図面化のワークフローを結合して効率化することができます。ほぼすべての形式の 3D モデルを読み込んで詳細な設計レイアウトと図面ビューをすばやく作成するだけでなく、元の 3D モデルの変更を図面ビューに自動的に反映させてワークフローを統合することができます。ユーザインターフェースとカスタマイズ可能なコマンドラインの表示が強化され、より簡単に使用できるようになるため、作業時間が短縮します。Autodesk® 360 を使用すれば、図面ファイルやフォルダを同期できるので、ほぼどこからでも設計環境にアクセスすることができます。また、数多くのさまざまなオートデスク認定アプリケーションを一箇所で検索してインストールできるようになり、従来以上に簡単にソフトウェアの機能を拡張できます。



目次

目次	2
操作方法	3
ウェルカム センター	3
AutoCAD ヘルプ	4
コマンド ラインの強化	5
プロパティのキャンバス内プレビュー	8
配列複写の強化	9
レイアウト ビューポートとモデル ビューポート	11
クイック ビュー図面	12
ハッチング エディタ	12
ラスター イメージ	12
外部参照	13
スナップの動作	13
デザインの探求	13
点群のサポート	13
境界引き伸ばし	17
サーフェス上の曲線抽出	18
Inventor ファイルの読み込み	18
ドキュメント	19
モデルの図面化	19
文字と引出線	28
ワイプアウト	29
ポリライン	29
オフセットのプレビュー	30
コミュニケーション	30
Autodesk 360 の接続性	30
常時接続	37
Content Explorer	37
Language Pack	38
図面ファイル形式	38
カスタマイズ	39
ダブルクリック アクション	39
Autodesk Exchange アプリケーション	39

操作方法

ウェルカム センター

AutoCAD 2013 を起動すると、ウェルカム センターが自動的に表示されます。ウェルカム センターから、図面、学習ツール、オンライン コンテンツに簡単にアクセスできます。

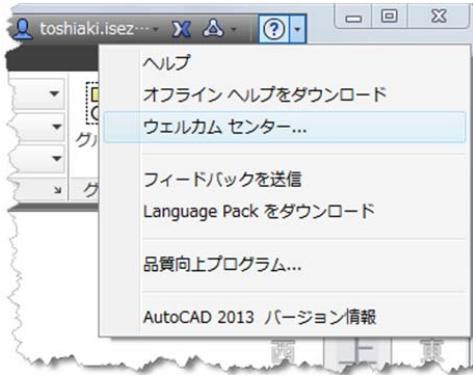


ウェルカム センターの[操作]パネルでは、既存の図面やサンプル ファイルを開いたり、新しい図面を作成することができます。[最近使用したファイル]リストに表示されるファイルの一覧では、最近使用した図面に簡単にアクセスできます。

[トピック]パネルを使用して AutoCAD 2013 の新機能の概要に触れることができます。また、AutoCAD 2013 を使い始めるうえで助けとなるビデオへのリンクや他の学習リソースを利用できます。

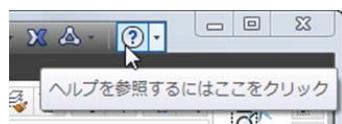
[関連トピック]パネルでは、簡単に Autodesk Exchange からアプリケーションをダウンロードしたり、Autodesk 360 および Facebook(フェイスブック) や Twitter(ツイッター) などの ソーシャル メディア リソースに接続することができます。

左下コーナーのチェック ボックスを使用して、起動時にウェルカム センターが表示されないようにすることもできます。ウェルカム センターは起動時に表示しなくても、情報センターのヘルプ アイコン メニューからアクセスできます。

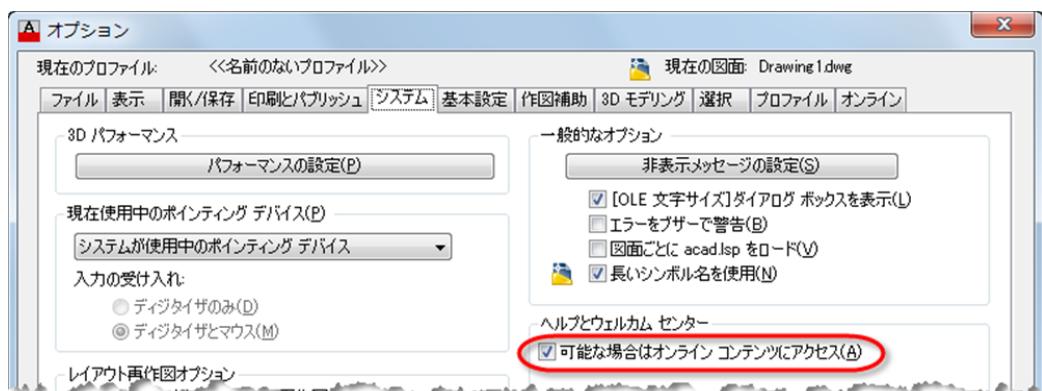


AutoCAD ヘルプ

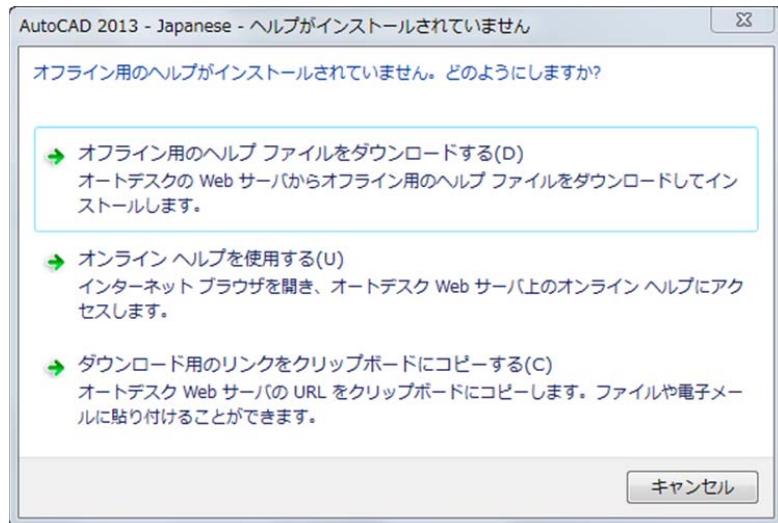
検索ベースの結果がすばやく得られるように、AutoCAD オンライン ヘルプ システムの構造が大幅に変更されました。情報センターのヘルプ アイコンから、AutoCAD ヘルプ システムにアクセスできます。既定では、オンライン ヘルプ ウィンドウが表示されます。



オフラインでの運用時や、[オプション]ダイアログ ボックスの[システム]タブでオンライン コンテンツへのアクセスを無効にしている場合、オンライン ヘルプは表示されません。



代わりに、オフライン ヘルプを必要に応じてダウンロードできるようになりました。



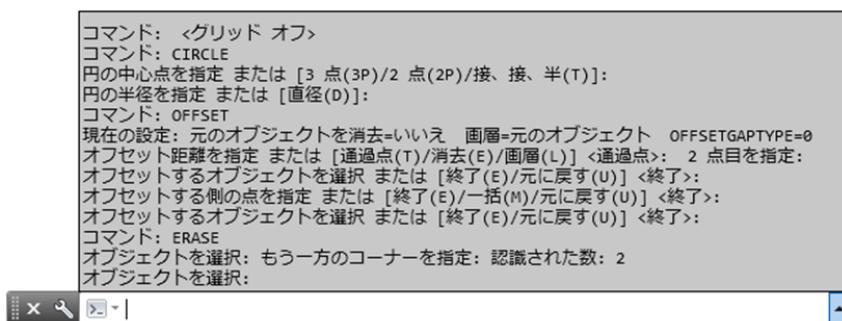
コマンド ラインの強化

AutoCAD 2013 では、コマンド ライン インタフェースが改良され、色や透過性の設定機能が導入されました。さらに、履歴の表示や最近使用したコマンドへのアクセスがより柔軟になりました。コマンド ラインは、AutoCAD ウィンドウの上部か下部にドッキングさせたり、浮動状態にして作図領域を最大限利用することができます。

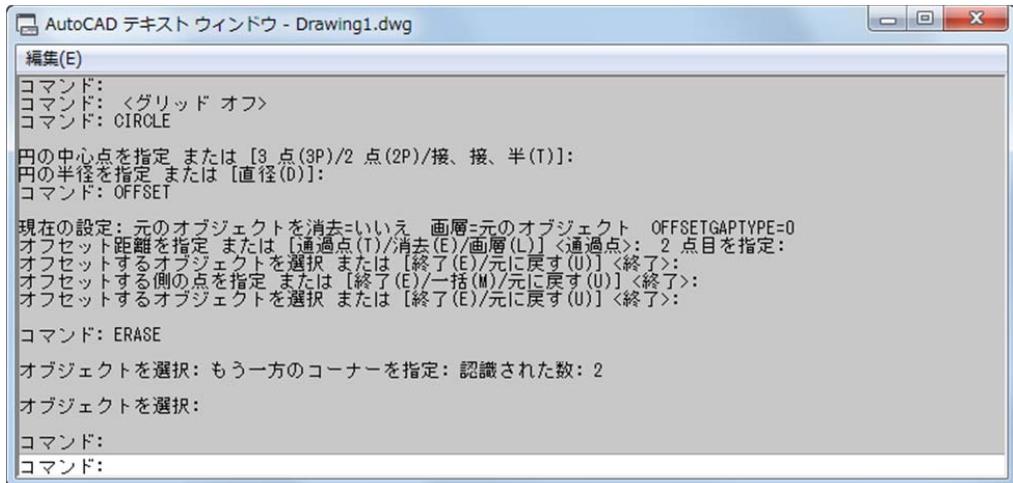
ドッキング解除されたコマンド ラインは、AutoCAD ウィンドウ上を浮動する單一行として表示されます。プロンプト履歴は半透明で表示され、作図領域に影響を及ぼすことなく 50 行までの履歴を表示できます。新しく追加された[カスタマイズ]メニューから、[プロンプト履歴の行数]だけでなく、[オートコンプリート]、[透過性]、[オプション]コントロールにも簡単にアクセスできます。



[F2]を押すか浮動コマンド ラインの右端にあるフライアウトをクリックすると、さらに多くのコマンド履歴を表示できます。

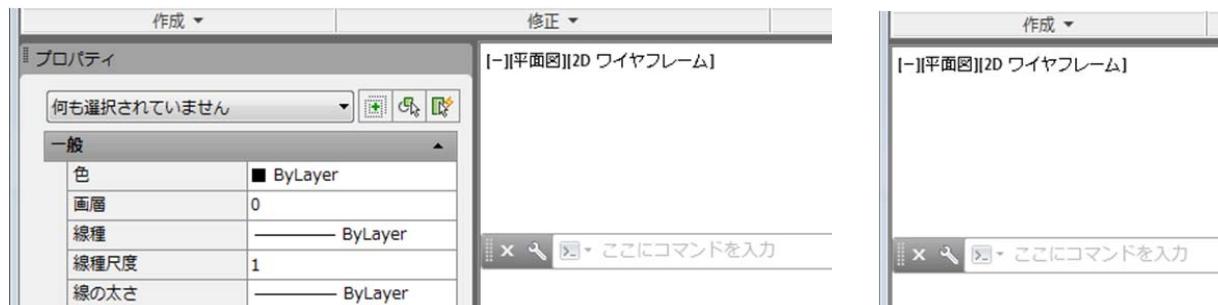


[Ctrl]+[F2]を押すと、履歴ウィンドウが表示されます。

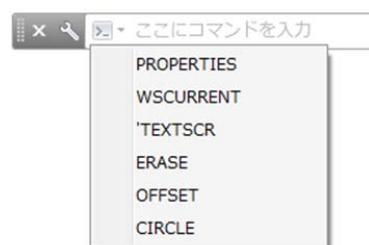


コマンド ラインをドッキング解除しているときは、AutoCAD ウィンドウまたはドッキングしているパレットの端に近づけることで、コマンド ラインをスナップできます。AutoCAD ウィンドウやドッキングしているパレットのサイズを変更したり移動したりすると、コマンド ラインもウィンドウやパレットの端を基準とした位置を維持するように移動します。

隣接するパレットのドッキングを解除すると、コマンド ラインは自動的に次のパレットまたは AutoCAD ウィンドウにスナップします。



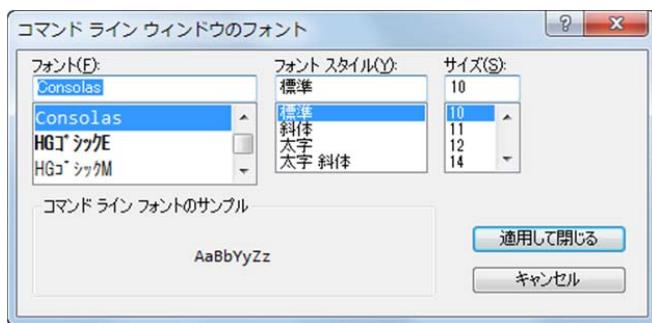
コマンド ラインの左端のドラッグ領域をクリックしたまま移動すると、AutoCAD ウィンドウの一番上または一番下にコマンド ラインをドッキングできます。コマンド ラインをフレームの端にスナップしないように配置する場合は、[Ctrl]を押しながら移動します。コマンド ラインのドッキング状態にかかわらず、コマンド アイコンでコマンド ラインを識別できます。また、コマンド アイコンは、AutoCAD がコマンドの入力待ちであることも意味します。コマンド アイコンをクリックすると、最近使用したコマンドを表示してすばやく呼び出すことができます。



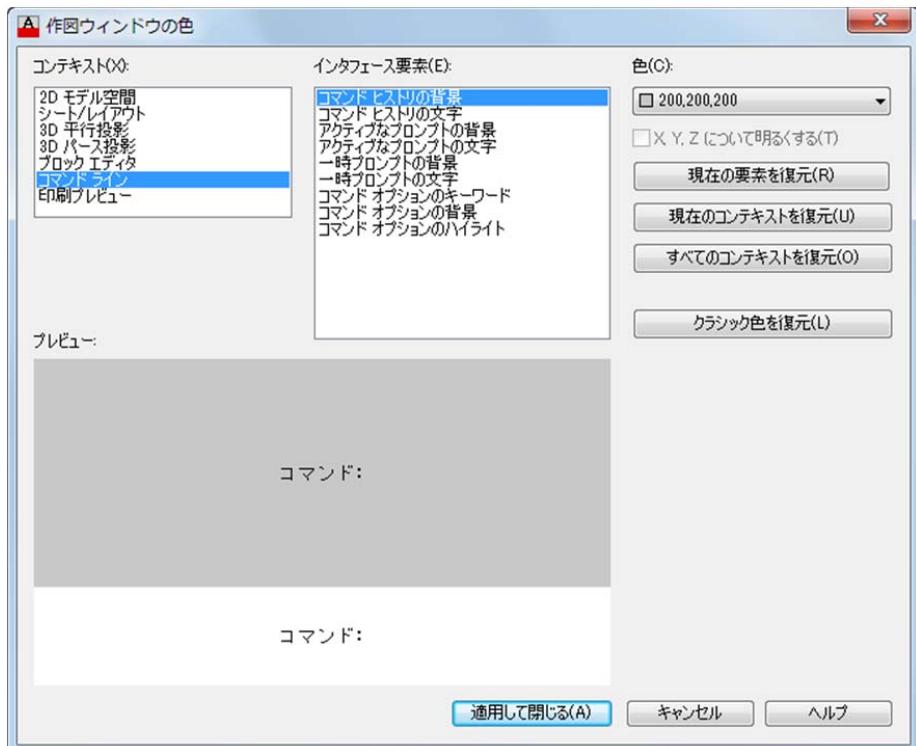
コマンドがアクティブなときは、常にコマンド名がコマンド ラインに表示されます。青で表示されるクリック可能なオプションにより、アクティブなコマンドのオプションをマウスで簡単に選択できます。



AutoCAD 2013 のコマンド ライン インタフェースでは、その他にも、[Enter]やスペース バーを押す、点を指定するなど、さまざまな入力操作に応答する改行動作が、さらに一貫性を持つよう強化されています。さらに、コマンド ライン ウィンドウ([F2]を押すと表示されるウィンドウを含む)は、等幅フォントのみをサポートするようになりました。コマンド ラインのフォントは、[オプション]ダイアログ ボックスの[表示]タブから設定できます。

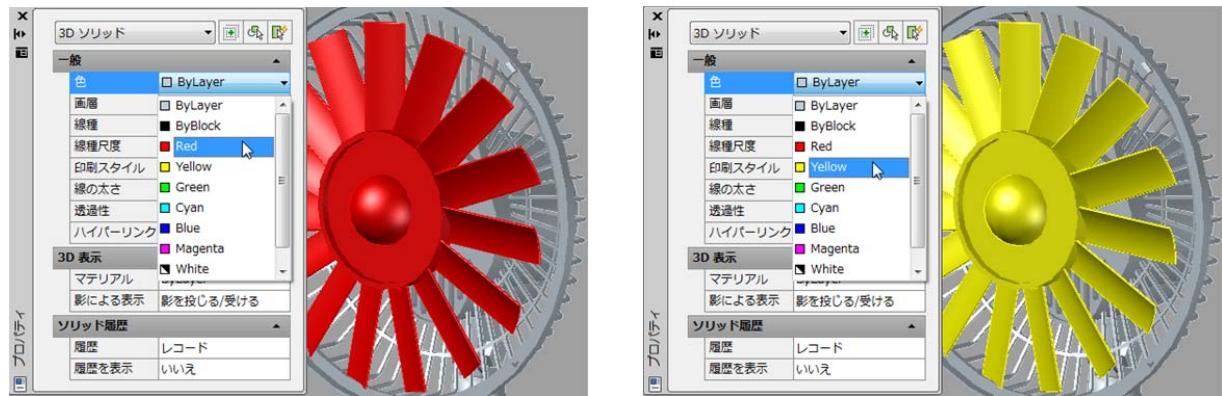


新しいインターフェース要素では、より柔軟にコマンドラインの色をコントロールすることができるようになりました。これらのコントロールには、[オプション]ダイアログ ボックスの[表示]タブの[色]ツールからアクセスできます。



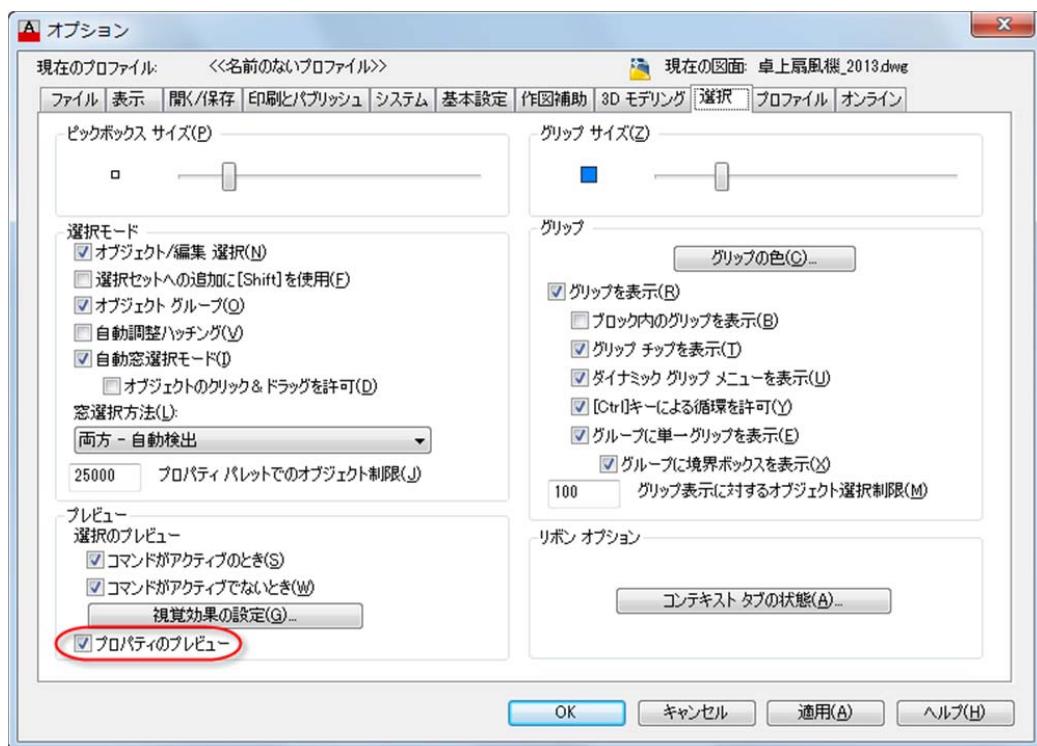
プロパティのキャンバス内プレビュー

オブジェクトやビューポートのプロパティを変更する際に、変更を適用する前にその結果を動的にプレビューできるようになりました。たとえば、オブジェクトを選択してから[プロパティ]パレットを使用して色を変更する場合、マウスカーソルを色リスト上や[色選択]ダイアログボックス内で移動すると、選択したオブジェクトの色が動的に変化します。



オブジェクトの透過性も、透過性の変更時に動的に適用されます。

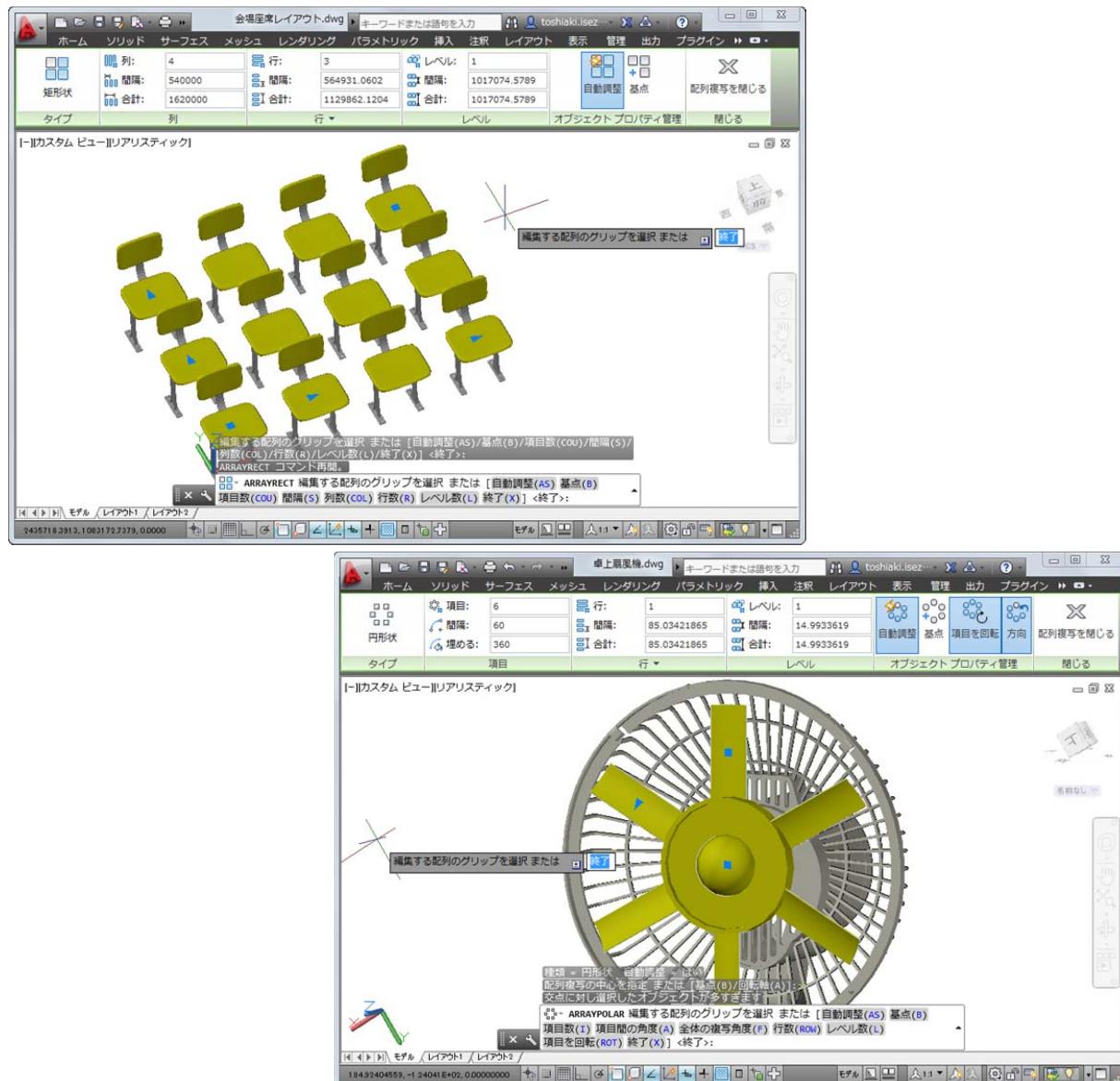
[オプション]ダイアログの[選択]タブの[プロパティのプレビュー]オプションを使用して、プロパティのプレビュー動作をコントロールできます。



配列複写の強化

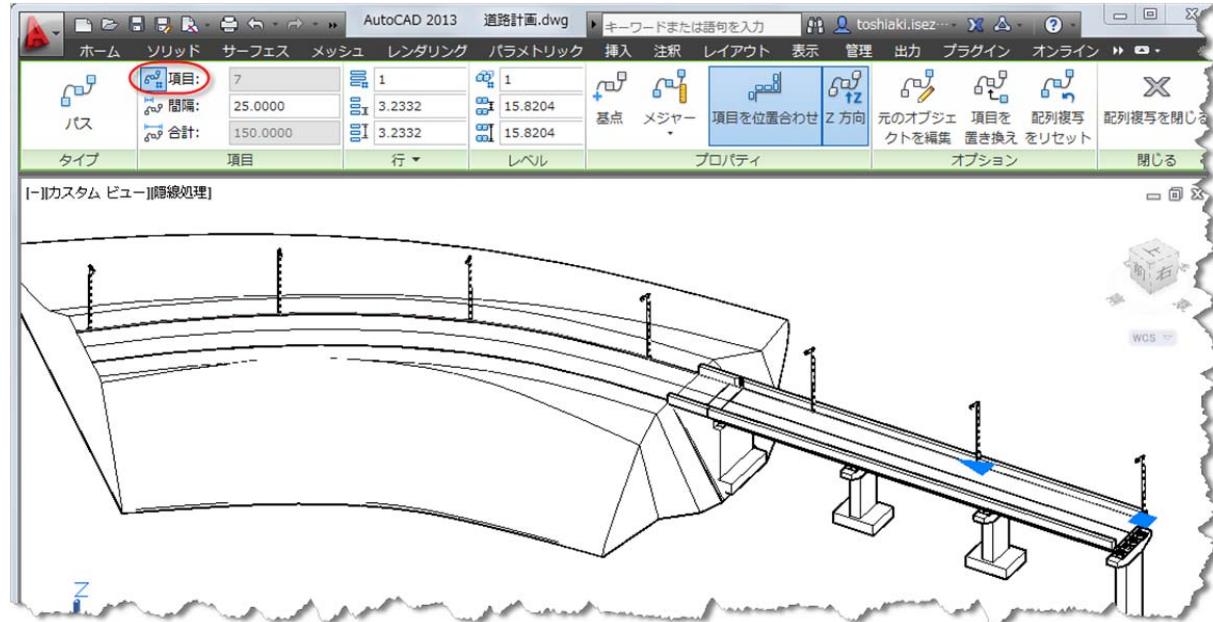
AutoCAD 2013 で強化された配列複写機能では、今までよりもすばやく簡単に、一定のパターンでオブジェクトを作成できます。

矩形状に配列複写するオブジェクトを選択すると、オブジェクトが 3 行 × 4 列のグリッド状に表示されます。円形状配列の作成時には、中心を指定した時点で、選択したオブジェクトが完全な円形状のパターンで 6 個表示されます。パス配列複写するオブジェクトおよびパスを選択すると、オブジェクトがパスの全体長に沿って等間隔に表示されます。どのタイプの配列複写(矩形状、円形状、パス)でも、配列複写オブジェクトの多機能グリップにより、関連するプロパティを動的に編集できます。[Ctrl]を使用して、複数のオプションを持つグリップを循環できます。多機能グリップを使用する以外にも、コンテキスト リボンタブ、さらにコマンド ラインで配列複写の値を修正することができます。

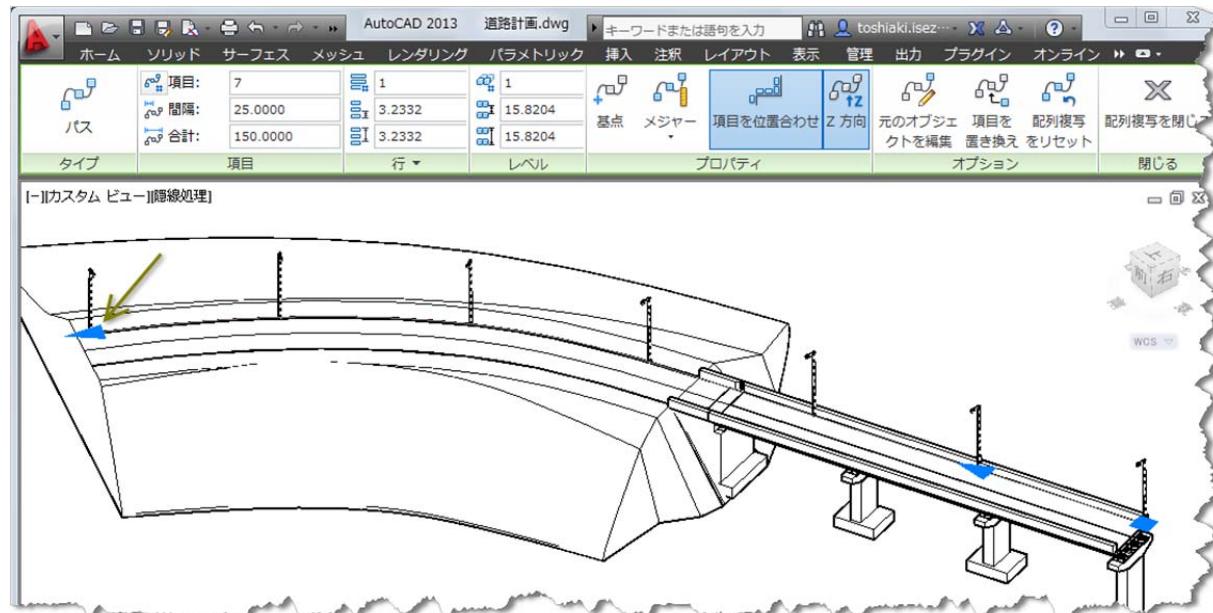


AutoCAD 2013 のパス配列複写では、メジャー方式を使用したときの柔軟性とコントロール性が向上しています。作成中に[接線方向(T)]オプションを使用すると、パスを基準とした配列複写オブジェクトの向きの指定が簡単になります。

項目数の切り替えでは、間隔と曲線の長さに基づいた数(パス全体に配置)にしたり、明示的に数をコントロールできます。項目の間隔を長く、または短くすると、指定したパスに収まるように、自動的に項目数が増減されます。同様に、パスの長さを変更しても、パス全体に収まるように、項目数が自動的に増減されます。

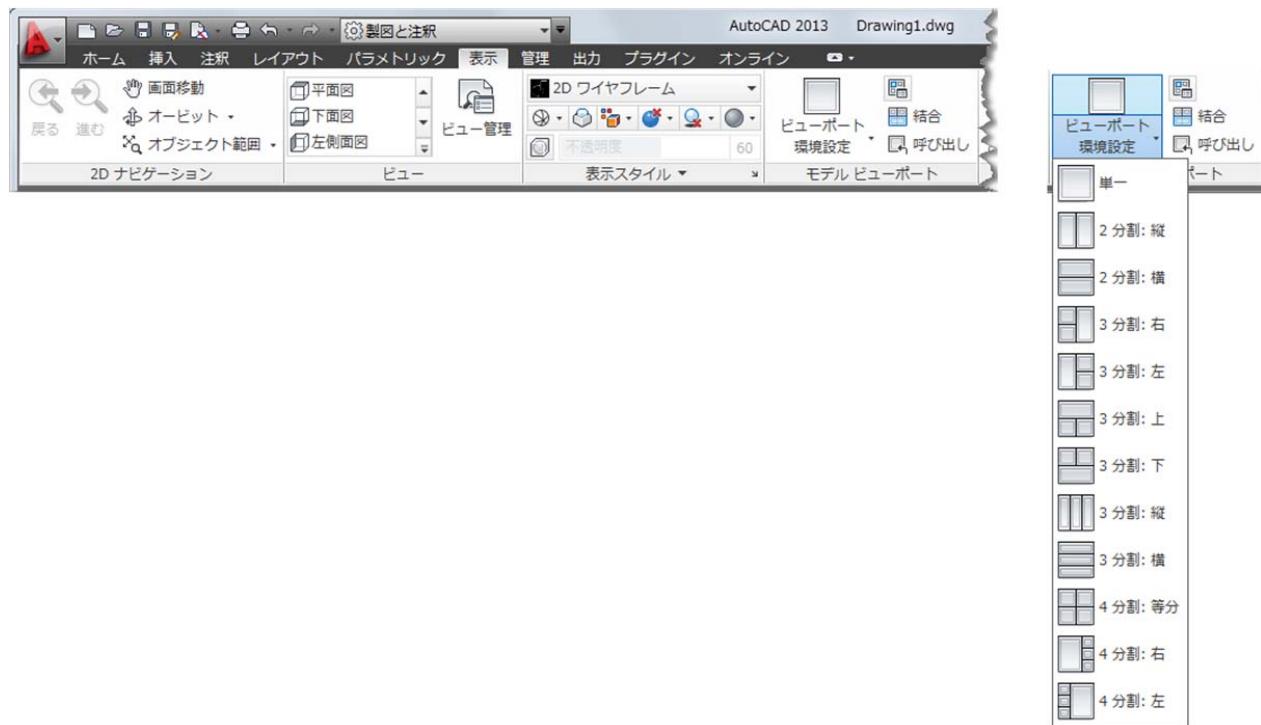


項目数の切り替えがオフのときは、配列の端の追加のグリップにより、項目数およびパス曲線の一部分に沿って配列複写するための合計項目間隔を動的に編集できます。



レイアウト ビューポートとモデル ビューポート

リボンの[ビューポート]パネルは、[モデル ビューポート]と[レイアウト ビューポート]という具体的な名前に変更されました。[モデル ビューポート]は、[表示]リボン タブからアクセスでき、モデル空間でビューポートを作成するときに使用します。標準的なモデル空間ビューポートの設定には、ドロップダウン メニューから簡単にアクセスできます。

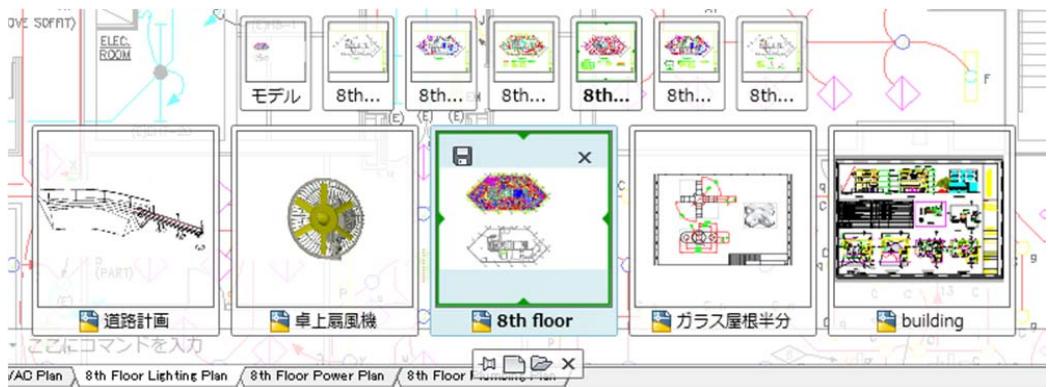


[レイアウト ビューポート]は、[レイアウト]リボン タブからアクセスでき、レイアウトでビューポートを作成するときに使用します。



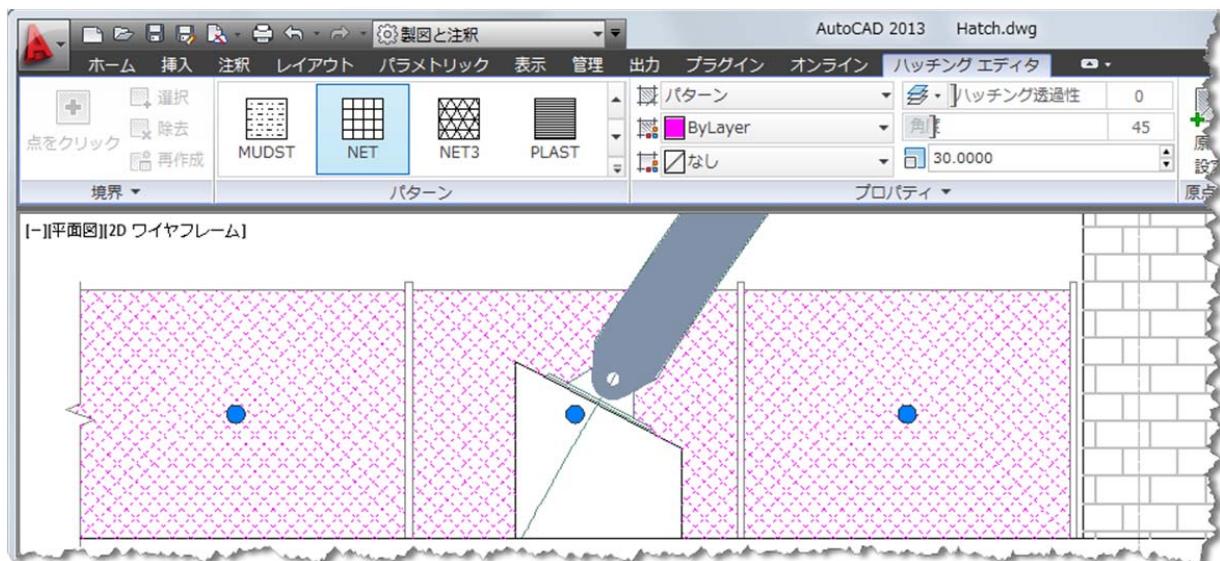
クイック ビュー図面

クイック ビュー画面のサムネイル表現が改善され、現在アクティブなビューは、太字とカラフルな境界線で強調表示されるようになりました。



ハッチング エディタ

AutoCAD 2013 では、複数のハッチング オブジェクトをすばやく簡単に編集できるように強化されています。[ハッチング エディタ]コンテキストリボンタブは、複数のハッチング オブジェクトを選択したときでも自動的に表示されます。同様に、ハッチング エディタのコマンドラインバージョン(-HATCHEDIT[ハッチング編集])を使用しているときも、同時編集のために複数のハッチング オブジェクトを選択できるようになりました。

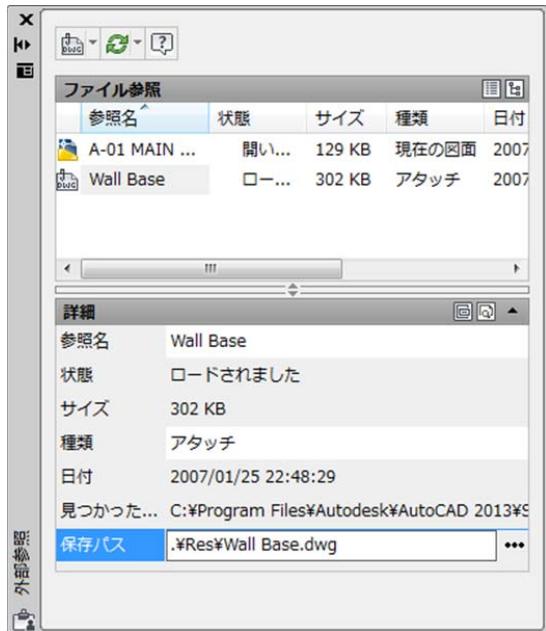


ラスターイメージ

モノクロ画像の再サンプリングアルゴリズムが更新され、サポートされているさまざまなイメージの表示品質が向上しました。

外部参照

外部参照機能が更新されました。[外部参照]パレットで直接[保存パス]を編集することができるようになりました。また、[見つかった場所]が読み込み専用で表示されるようになりました。



右クリックメニューも、いくつかの点が更新されています。ダイアログボックスでは、既定のタイプが、[相対パス]に変更されました。ただし、相対パスが利用できない場合を除きます。たとえば、図面がまだ保存されていない場合や、ホスト図面や外部ファイルが別のディスクパーティションに配置されている場合がこれに当てはまります。

スナップの動作

スナップツールの新しい[旧形式(L)]オプションは、グリッド点へのスナップ使用の際の柔軟性を向上させます。旧型式をオンに設定すると、コマンド実行中の点の指示やオブジェクトの選択時に、カーソルがスナップ間隔にスナップされます。

旧型式のオフに設定すると、コマンドの実行中に点を指示するときにだけ、スナップ間隔にカーソルがスナップします。コマンドの実行中でない場合や、コマンド実行中でもオブジェクトを選択する場合には、スナップ間隔でのスナップは無視されます。

スナップ間隔を指定 または [オン(ON)/オフ(OFF)/縦横比(A)/旧形式(L)/座標系(S)/タイプ(T)] <10.0000>: L
SNAP 従来のバージョンにあった常にグリッドにスナップさせる機能を保持しますか? [はい(Y) いいえ(N)] <いいえ>:

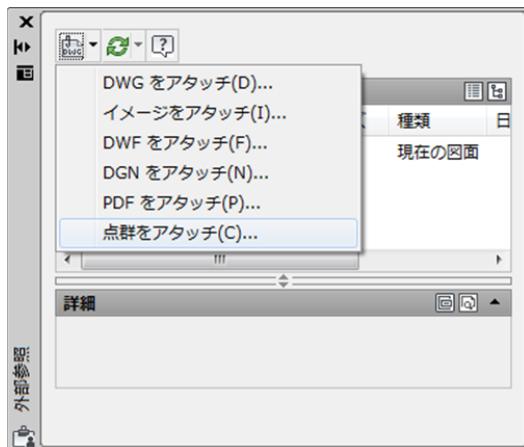
デザインの探求

点群のサポート

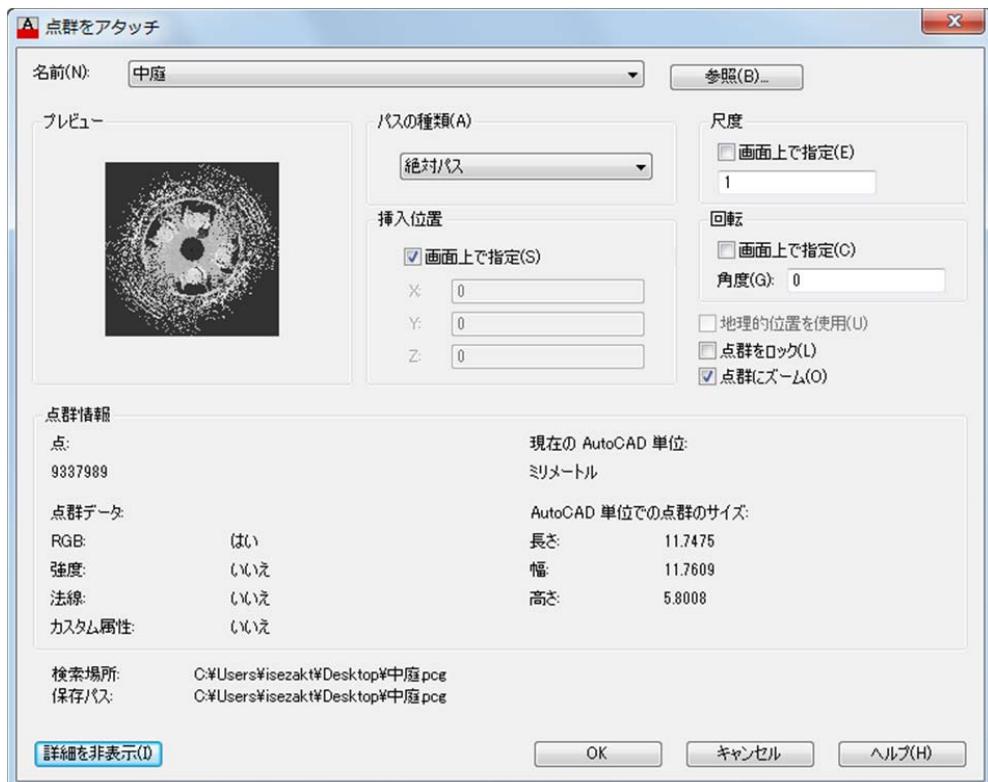
AutoCAD 2013 では、点群機能が大幅に強化されました。点群ツールは、新しい[点群]ツールバーおよび[挿入] リボン タブの [点群] パネルで利用できます。



点群ファイルは、外部参照、イメージ、その他の外部参照ファイルと同じように、アタッチ操作や管理をおこなうことができます。



[点群をアタッチ]ダイアログ ボックスは、選択した点群のプレビュー イメージや詳細情報が表示されるよう更新されました。



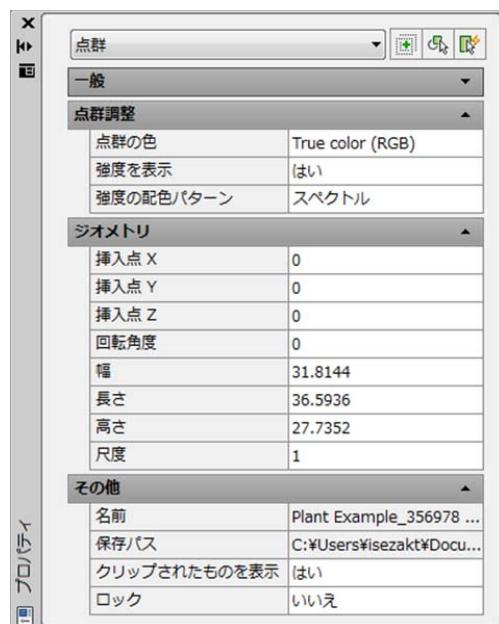
アタッチされた点群を選択すると、データの周囲に境界ボックスが表示されるので、3D 空間での位置や他の 3D オブジェクトを基準とした位置が視覚的に把握し易くなりました。境界ボックスが表示される以外では、点群の選択時に自動的に表示される[点群]リボンタブを使用することで、関連するコマンドに簡単にアクセスできるようになっています。



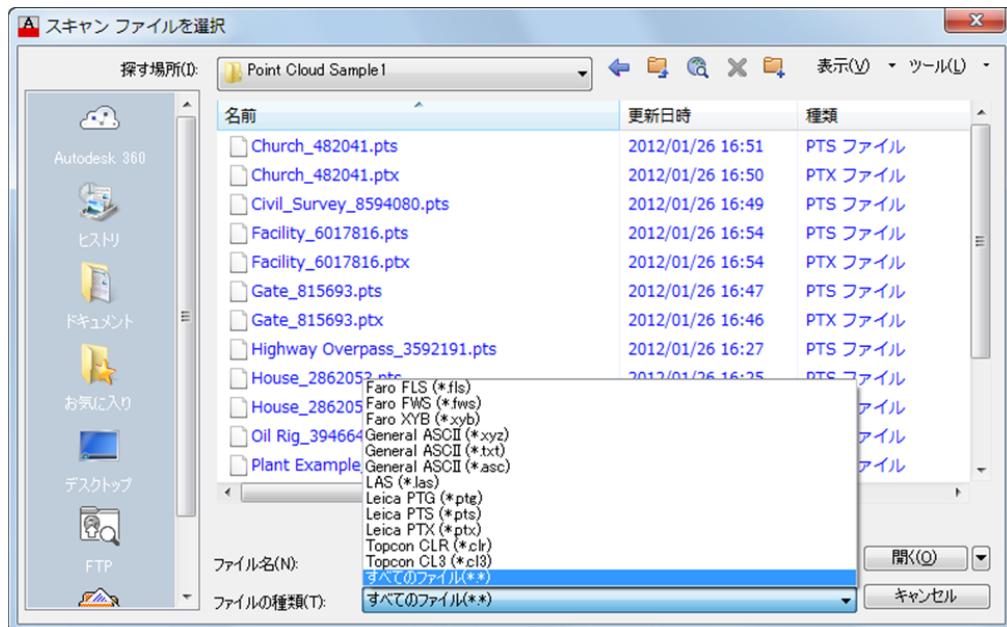
点群の密度を調整したり、点群に強度データが含まれている場合は、解析ツールを使用してグレースケールやスペクトルを含むさまざまな配色パターンで点の強度を表示できます。



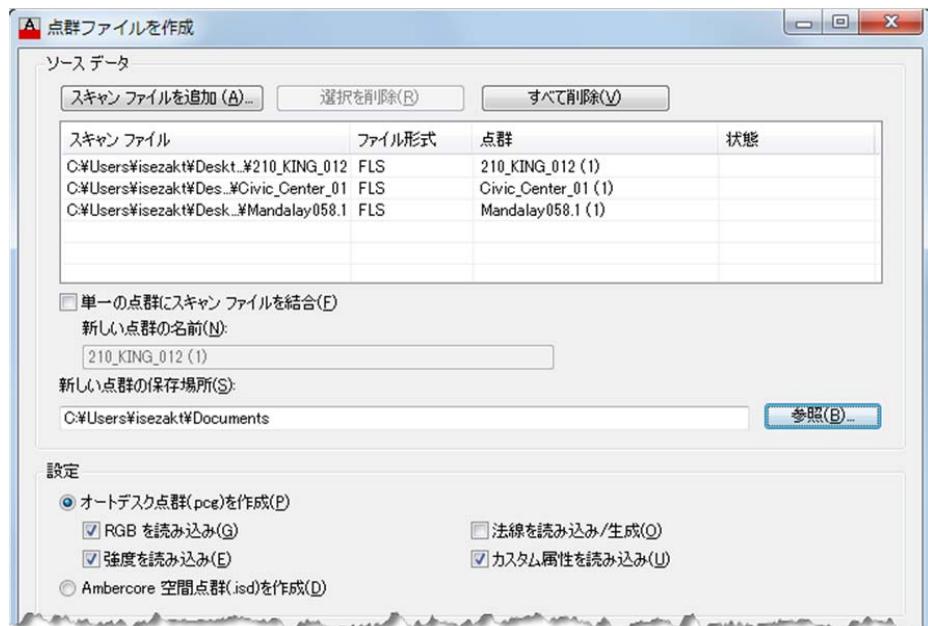
新しいクリップツールを使用すると、選択した点群のクリップ境界を作成したり修正することができます。追加のオプションを使用して、境界ボックスの表示/非表示を指定したり、[外部参照管理]を簡単に表示することができます。[プロパティ]パレットは、強度やクリップなどの新しい点群プロパティが表示されるよう更新されています。



AutoCAD 2013 では、点群のインデックス作成が大幅に強化され、未加工のスキャン ファイルを使用して作業する場合のワークフローがよりスマートかつ効率的になりました。Faro だけではなく、Leica や Topcon を含む産業用スキャナー主要会社のスキャン ファイルのインデックスを作成できます。



新しい[点群ファイルを作成]ダイアログ ボックスには、未加工の点群スキャン ファイルを選択してインデックス化するために、直感的に操作できる柔軟なインターフェースが用意されました。複数のファイルを選択して一括でインデックスを作成したり、さらにはファイルを結合して1つの点群ファイルを作成することができます。PCG ファイルを作成するときは、[RGB]、[強度]、[法線]、[カスタム属性]など、インデックス作成時の設定の指定も可能です。

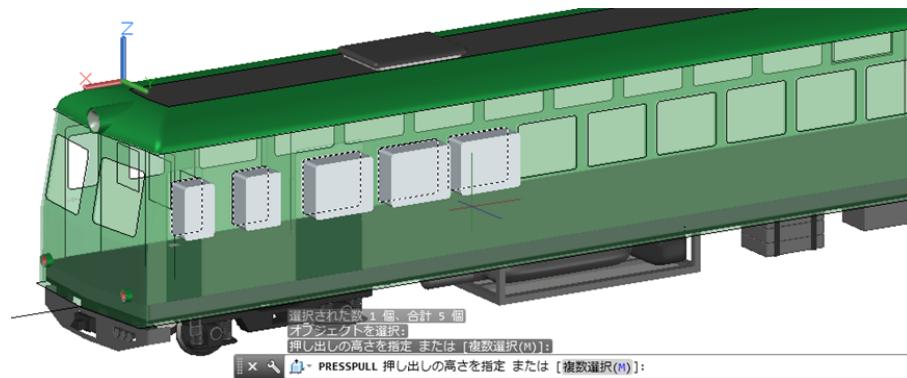


AutoCAD 2013 からで旧バージョンの DWG ファイル形式で保存すると、旧バージョンの図面ファイル形式との互換性を保つために、アタッチされた PCG ファイルに対して再度インデックスが作成され、品質がダウングレードされることを警告するメッセージが表示されます。新しいファイルの名前は、対応する自動的に番号付けされたファイル名に変更されます。

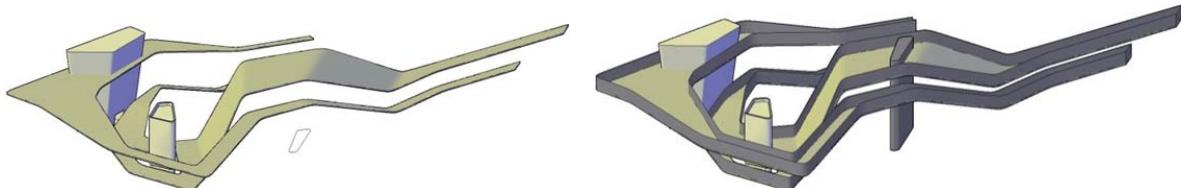
境界引き伸ばし

AutoCAD 2013 では、[ホーム]リボン タブの[モデリング]パネルにある[境界引き伸ばし]ツールが強化され、より柔軟に対応できるツールになりました。

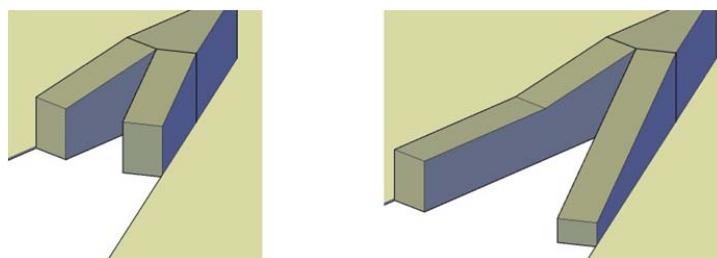
新しい[複数選択(M)]オプションまたは[Shift]キーを使用すると、1 回の操作で複数のオブジェクトを引き伸ばすことができます。



また、境界領域の内側でクリックするという制限はなくなりました。さらに 2D および 3D 曲線も選択できるようになりました。



[境界引き伸ばし]ツールを使用して面を選択すると、既定の動作により面がそのまま押し出されます。平面を選択するときに[Ctrl]キーを押すと、隣接する側面のテープ角度に従って押し出されるため、平面をオフセットできるようになりました。



サーフェス上の曲線抽出

[サーフェス]リボン タブの[曲線]パネルから利用できる新しい[面分割線を抽出]ツールでは、既存のサーフェスまたはソリッドの面から簡単に面分割曲線を抽出できます。

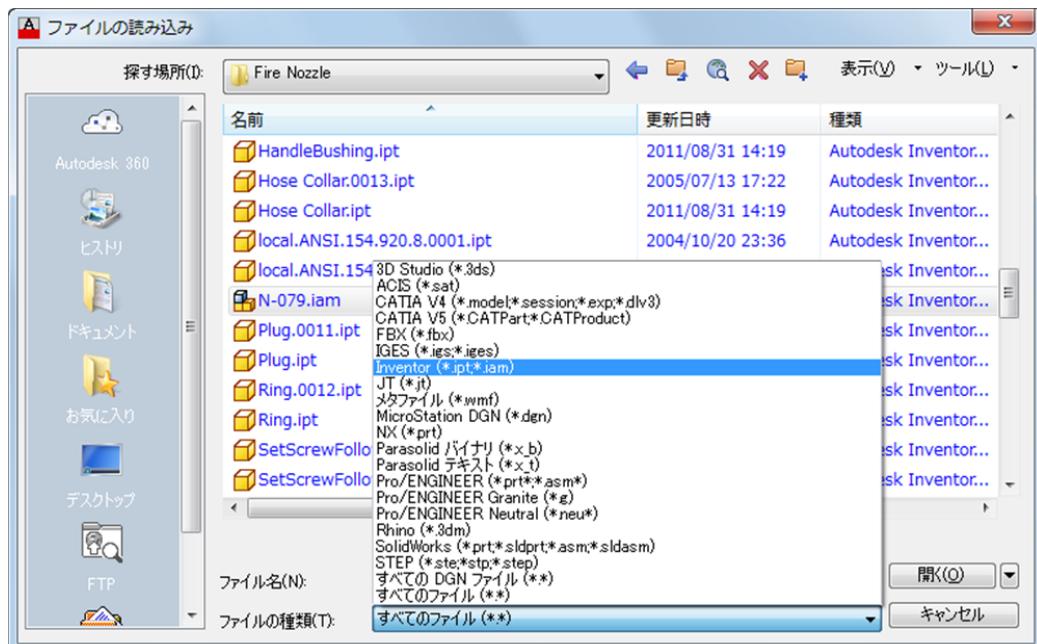


[面分割線を抽出]ツールのオプションを使用して、面分割線の方向を変更したり、一連の面分割線を選択したり、スプラインの点を指定することによって曲面上にスプラインを描くことができます。



Inventor ファイルの読み込み

AutoCAD 2013 では、標準の読み込みツールを使用して、Inventor モデル(.ipt、.iam ファイル)を直接 AutoCAD のモデル空間環境に読み込むことができます。



ドキュメント

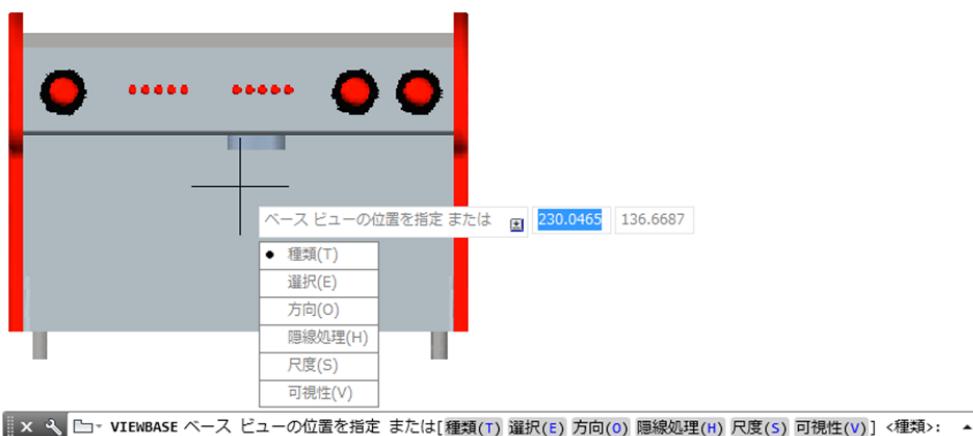
モデルの図面化

AutoCAD 2013 では、モデルの図面化機能が大幅に強化されました。新しい[レイアウト]タブには、図面レイアウトやビューを作成、管理するための一般的なツール以外にも、モデルの図面化ツールが含まれています。[ビューを作成]パネルでは、図面ビューを作成するための、新しいツールや強化されたツールを利用できます。

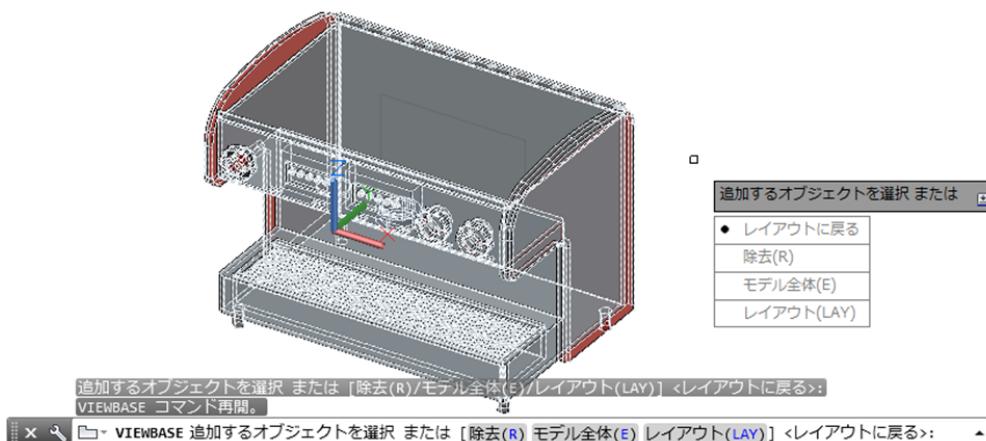


図面ビュー

ベース ビュー ツールに、新しく[選択(E)]オプションが含まれました。このオプションにより、ベース ビューで表示される 3D オブジェクトを指定できます。[選択(E)]オプションは、作成済みのベース ビューを編集する場合にも使用できます。



[選択(E)]オプションを使用すると、AutoCAD は一時的にモデル空間に切り替わるので、ベース ビューの選択セットへのオブジェクトを追加または除外できます。



モデル空間で作業を開始して、ビューを作成するオブジェクトを選択することもできます。オブジェクトの選択後、ベース ビュー ツールを使用して、[モデル空間から作成]を選択します。既存のレイアウトの名前を指定したり、新しいレイアウト名を入力することができます。レイアウトの指定方法によって、AutoCAD が必要に応じて自動的に新しいレイアウトを作成し、アクティブな状態に切り替えます。

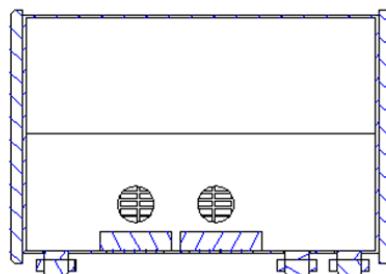
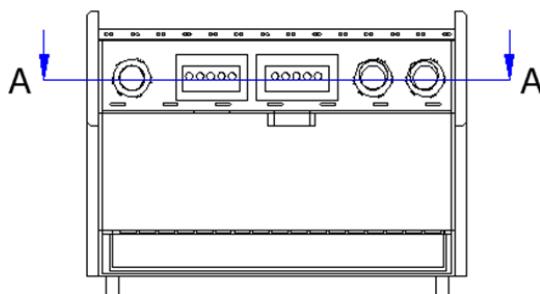
AutoCAD のモデルの図面化ツールを使用して図面ビューを作成すると、接頭語 MD_ が付いた関連画層が自動的に図面に追加されます。画層の名前を変更したり、画層のプロパティを変更すると、その変更は、既存の図面ビューだけでなく、同じ図面内にそれ以降作成される図面ビューにも自動的に適用されます。

断面ビュー

断面線を定義する点を指示することで、既存の図面ビューから断面ビューを作成します。コンテキスト リボン タブから、深度やハッチングのコントロールを含む断面ビュー作成ツールに簡単にアクセスできます。

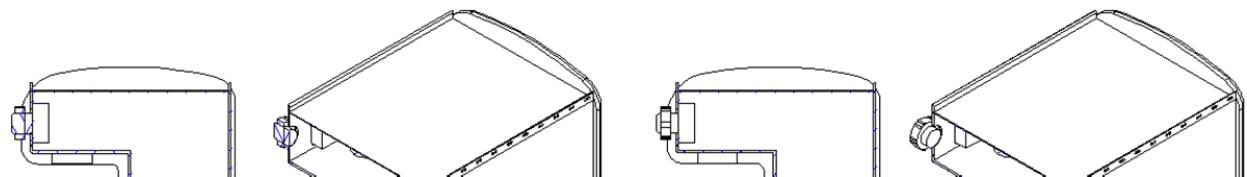


自動的に、断面識別子が適用され、これ以降断面ビューを作成するたび識別子が増加していきます。独自の識別子に変更することもできます。さらに、断面と尺度を識別するビュー ラベルを表示するようにすることもできます。

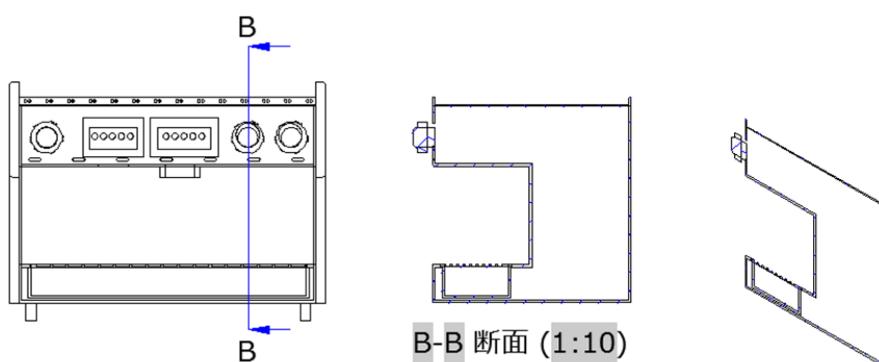
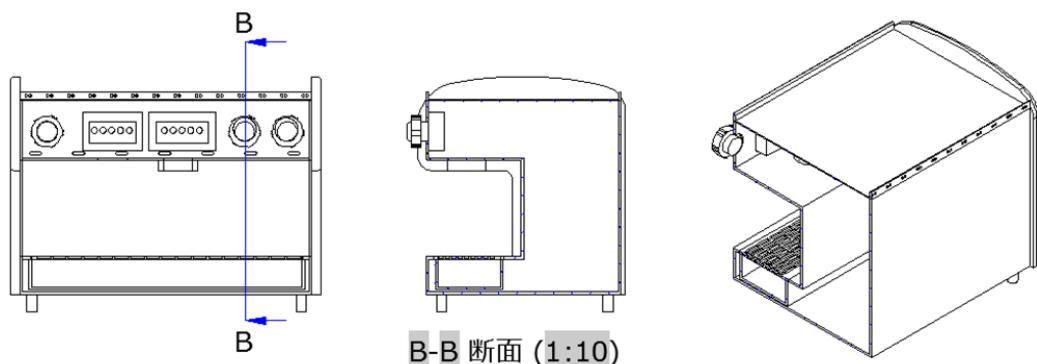


A-A 断面 (1:10)

[レイアウト]リボン タブの[構成要素を編集]ツールを使用すると、モデルの個々の構成要素を断面図に配置するかどうかをコントロールできます。選択した構成要素を[なし(N)]に設定すると、構成要素は断面が作成されずに表示されます。構成要素の配置は、断面ビューから投影された子ビューに渡されます。



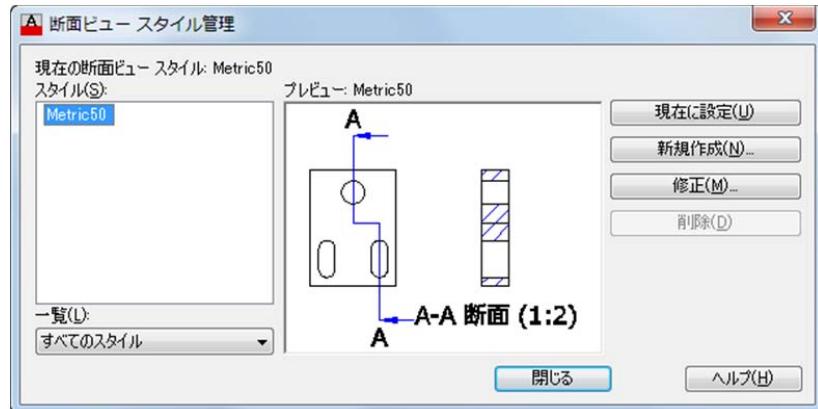
断面ビューに深さを完全に含めるのか、スライスだけを含めるのかを指定することもできます。



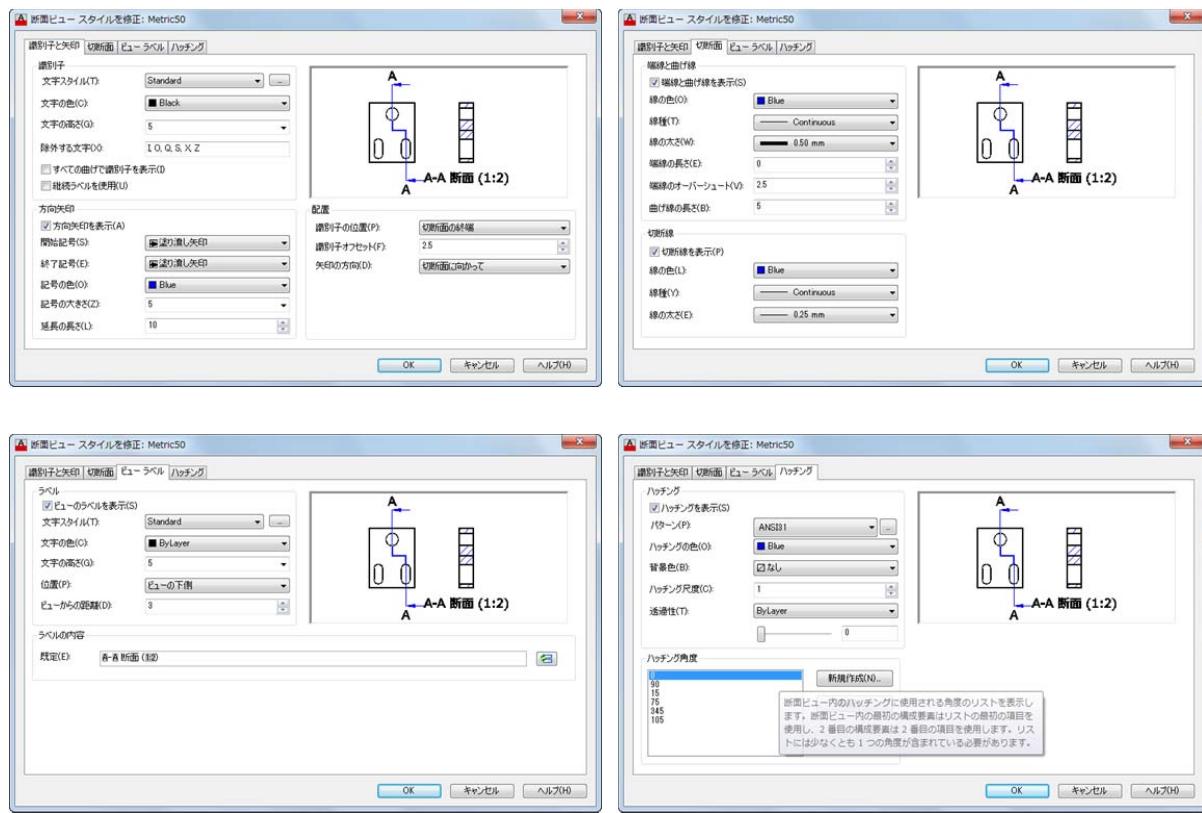
断面のビュー ラベルの外観は、[レイアウト]リボン タブの[断面ビュー スタイル]で決定します。定義済の断面ビュー スタイルを選択したり、[断面ビュー スタイル管理]を使用して独自のスタイルを定義することができます。



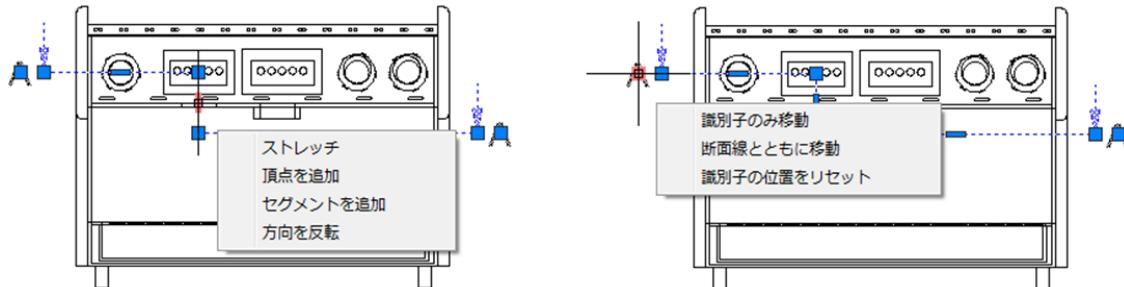
[断面ビュースタイル管理]では、新しい断面ビュースタイルを作成するだけでなく、既存のスタイルを修正または削除することもできます。



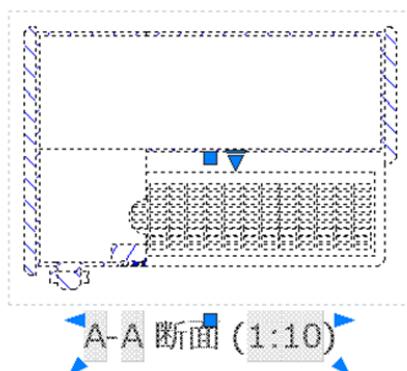
断面ビュースタイルの作成や修正時には、さまざまなコントロールを使用して、断面の識別子と矢印の外観、切断面、ビュー ラベル、ハッチングを指定できます。



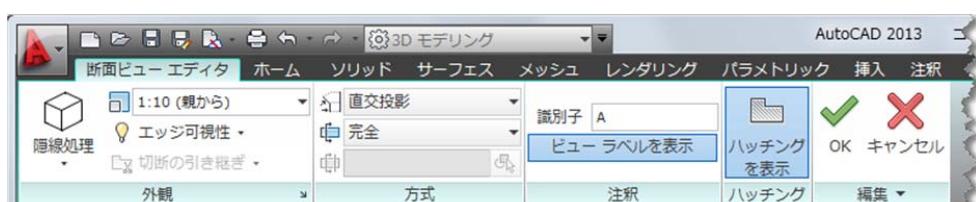
断面ビューは、作成後にも簡単に修正することができます。断面線の多機能グリップを使って断面線を移動したり、頂点を追加または除去したり、方向を反転したり、識別子の位置を変更することができます。



断面ビューや断面のビュー ラベルのグリップでは、ビューの位置や尺度を修正できるだけでなく、ラベルの位置、幅、高さも変更できます。断面ビューにハッチングが含まれている場合には、多機能グリップを使用してハッチング パターンのプロパティを編集できます。断面ビューとの関連は維持されます。



その他の編集ツールも、断面ビューを選択した状態での右クリック メニューおよびリボン タブ([ビューを編集]/[VIEWEDIT]ボタン)からアクセスできる[断面ビュー エディタ]で利用できます。

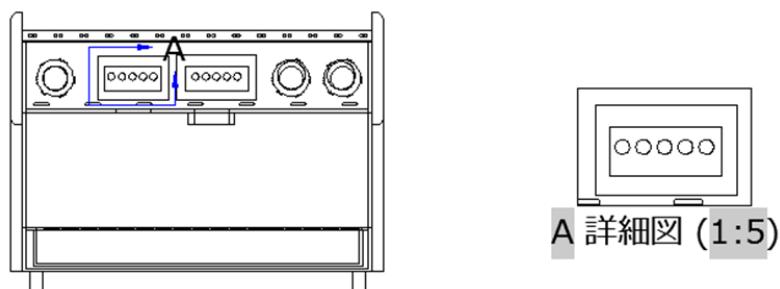


詳細ビュー

既存の図面ビューから詳細ビューを作成します。コンテキスト リボン タブから、詳細ビュー作成ツールに簡単にアクセスできます。このツールにより、円形状または矩形状の境界を指定したり、境界の表示/非表示をコントロールしたり、スムーズやギザギザ形状のエッジを指定することもできます。



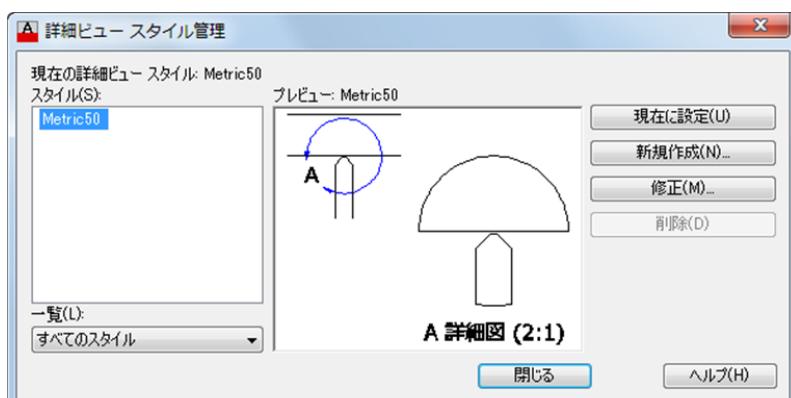
自動的に、詳細ビュー識別子が適用され、これ以降詳細ビューを作成するたび識別子が増加していきます。独自の識別子が優先されるようにすることもできます。さらに、詳細ビューと尺度を識別するビューラベルも自動的に挿入されます。



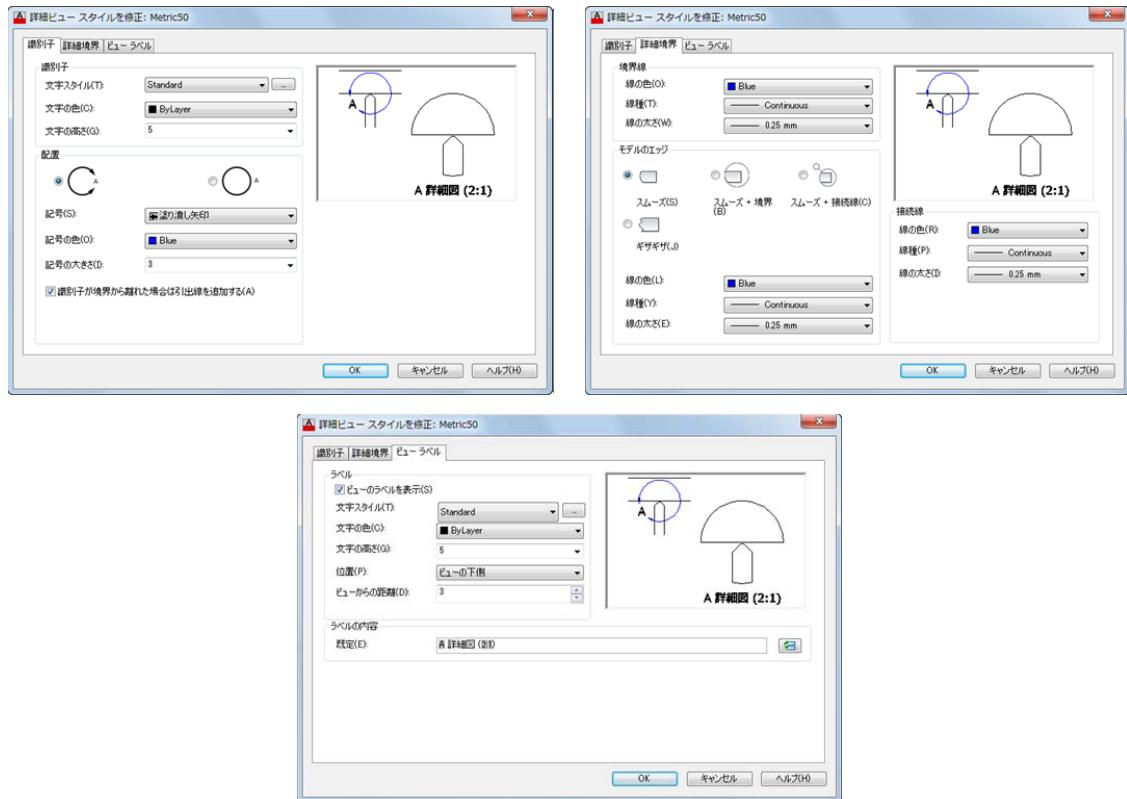
詳細ビューラベルの外観は、[レイアウト]タブの[詳細ビュースタイル]で決定します。定義済の詳細ビュースタイルを選択したり、[詳細ビュースタイル管理]を使用して独自のスタイルを定義することができます。



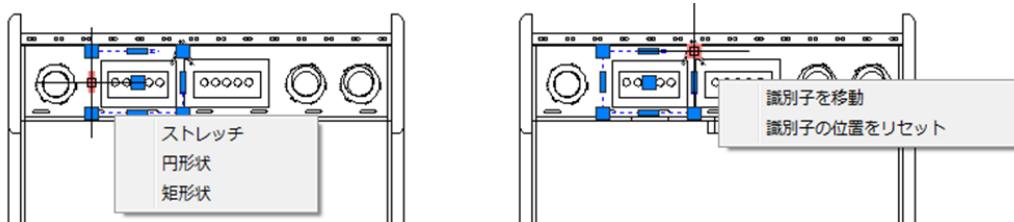
[詳細ビュースタイル管理]では、新しい詳細ビュースタイルを作成するだけでなく、既存のスタイルを修正または削除することもできます。



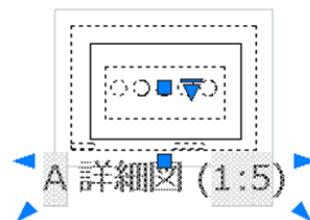
詳細ビュースタイルを作成または修正するときは、さまざまなオプションを指定して、詳細境界、ビューラベル、詳細ビューをコントロールできます。



詳細ビューは、作成後に簡単に修正することができます。詳細記号のグリップで、境界の位置や識別子を修正できます。



詳細ビューおよび詳細のビュー ラベルのグリップでは、ビューの位置や尺度を修正できるだけでなく、ラベルの位置、幅、高さも変更できます。

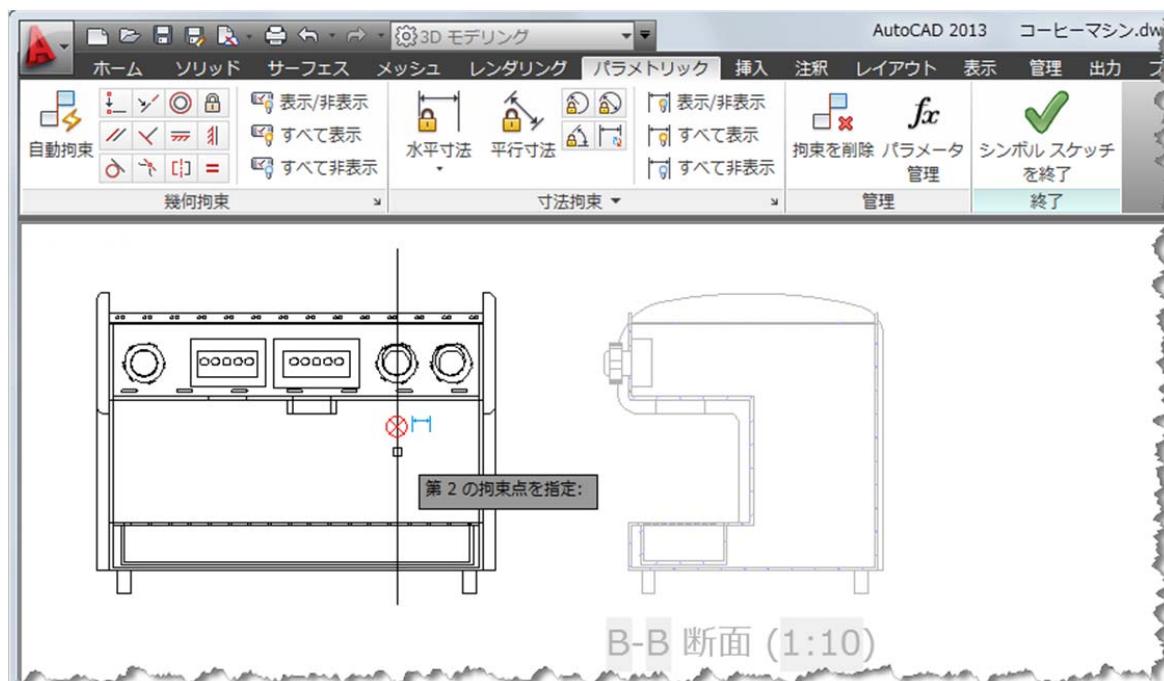


その他の編集ツールも、詳細ビューを選択した状態での右クリック メニューやリボン タブからアクセスできる[詳細ビュー エディタ]で利用できます。



ビュー シンボル スケッチ

シンボル スケッチ ツールを使用して図面ビューで断面線と詳細境界をキ一点に拘束すると、モデルまたはレイアウトが変更されても精度を保つことができます。



自動調整注釈

作成する図面ビューの種類(ベース、投影、断面、詳細)に関係なく、従来の寸法記入ツールやマルチ引出線ツールを使用して、注釈をビューに関連付けることができます。注釈は、選択した頂点または選択したエッジから求められた頂点に基づいて、図面ビューに関連付けられます。これにより、図面ビューの形状を変更(移動、回転、尺度変更)したり更新しても、注釈はその変更に応じて処理されます。たとえば、図面ビューを移動すると、自動調整注釈は、移動選択セットに含まれていなくても図面ビューとともに移動されます。図面ビューを更新すると、ジオメトリのサイズが変化しても、自動調整注釈は頂点に関連付けられたままになります。図面ビューに対しては、注釈の自動調整機能を維持しつつ、表示スタイルやオブジェクトの可視性の変更、ビューの選択セットへのオブジェクトの追加または除去のような、その他の編集を実行できます。

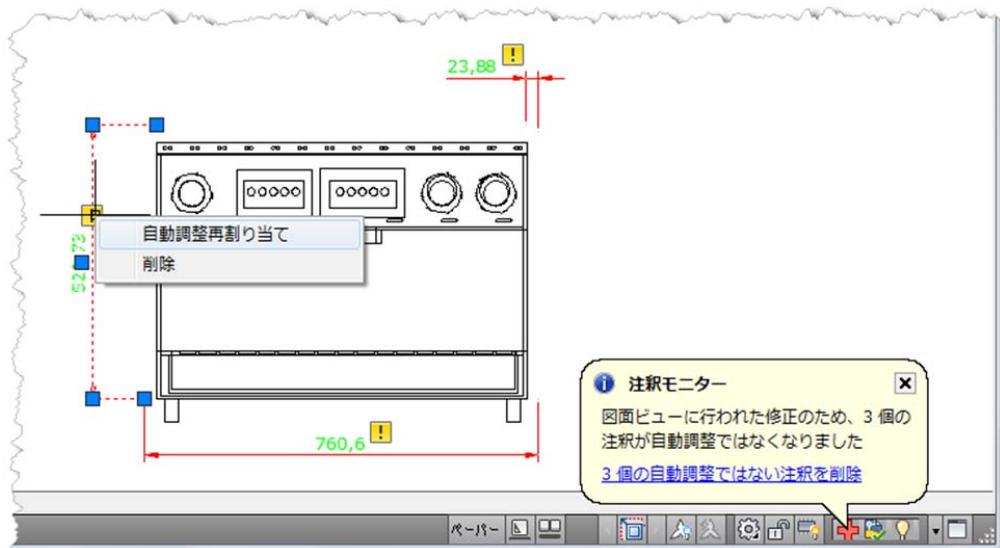
注釈は図面ビューに関連付けられ、図面ビューはモデルに関連付けられているので、図面ビューまたはモデル自身を編集したことによって、注釈との関連付けが無効になったり、自動調整が解除される場合があります。

たとえば、自動調整注釈を含む図面ビューを削除する、またはモデルの図面ビューで注釈が付けられている部分を削除すると、自動調整注釈は無意味になります。AutoCAD 2013 の新しい注釈モニターは、このような非自動調整となった注釈の識別と対処を手助けします。

[注釈モニター]ボタンが AutoCAD のステータスバーにあり、この設定をオンにすると、自動調整注釈の状態がフィードバックされます。現在の図面内のすべての注釈が自動調整である場合、システムトレイの注釈アイコンは既定の状態を示します。

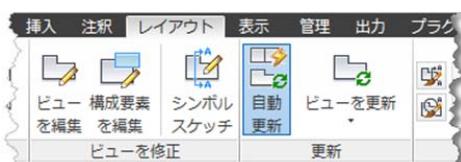


1つでも注釈の自動調整が解除されると、ただちにシステムトレイの[注釈モニター]アイコンが変化して、図面内の自動調整が解除された注釈それに警告マークが表示されます。個々の注釈をクリックして、一度に1つずつ、自動調整を解除または削除することができます。また、[注釈モニター]の警告バルーン内のリンクを選択することで、すべての自動調整が解除された注釈をすばやく削除することもできます。



自動ビュー更新

[自動更新]ツールは、参照元の3Dモデルが変更されたときに、自動的に図面ビューが更新されるようにするかどうかをコントロールします。



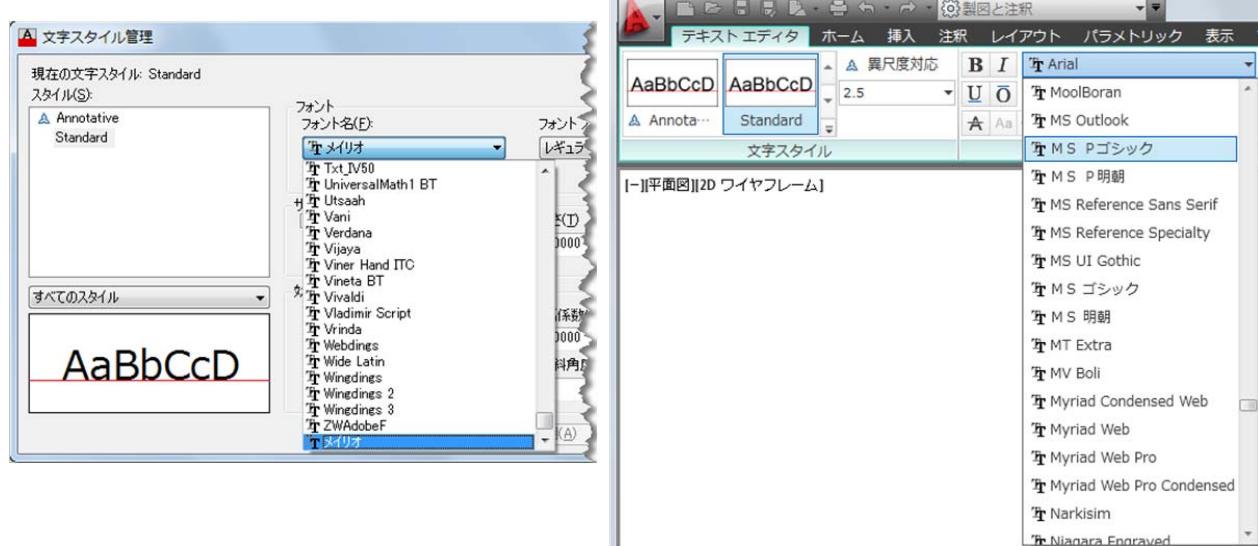
レイアウト - モデル変換

[レイアウト - モデル変換]ツールが更新され、円形のオブジェクトが含まれた図面ビューを含むレイアウトを変換したとき、変換後の図面内でそれらのオブジェクトが、ポリラインではなく円や円弧として表現されるようになりました。

文字と引出線

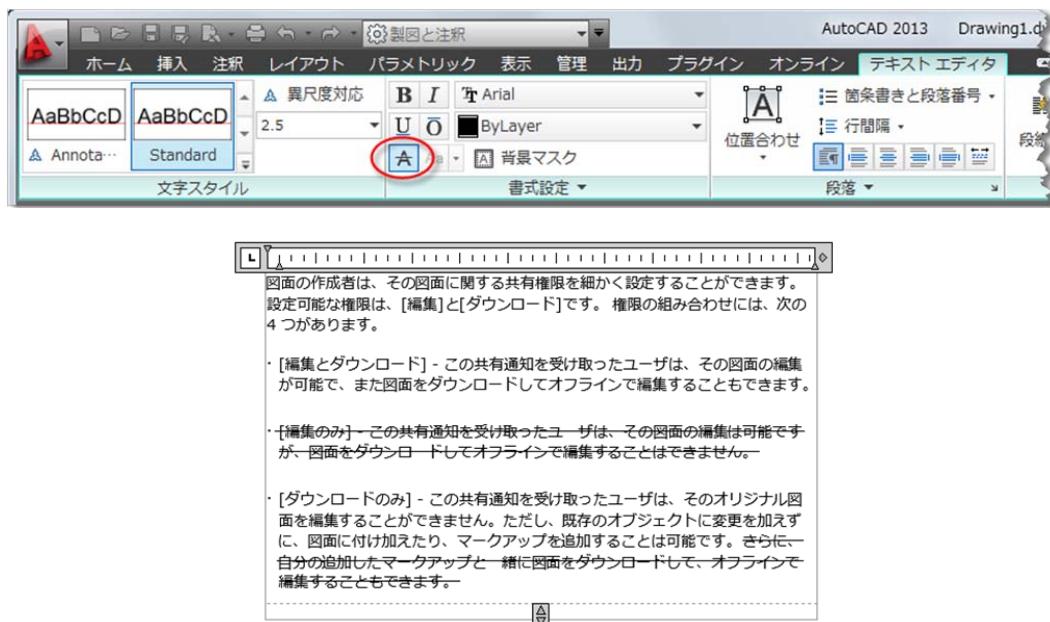
フォント一覧

[文字スタイル管理]ダイアログ、[テキストエディタ]リボン タブ、ArcAlignedText ダイアログ (Express Tools - 日本ではサポート対象外)の[フォント]ドロップダウン リストの表示行数が増えました。



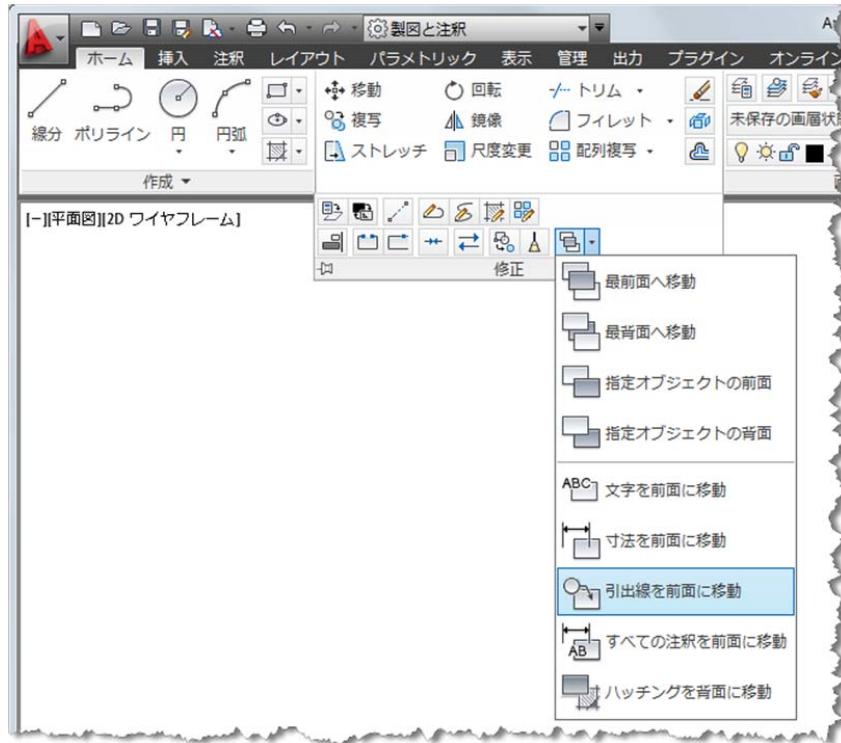
取り消し線文字

マルチ テキスト、マルチ引出線、寸法、表に新しい取り消し線スタイルが加わりました。



引出線

前面に移動ツールに引出線が含まれるようになりました。



[マルチ引出線]テキスト ボックスは、文字と文字枠の間に余白が含まれるように、そして文字のオーバーフローを防止するためにマルチ テキストの最小幅を指定できるように更新されました。

ワイプアウト

[ワイプアウト]ツールが更新され、ワイプアウト フレームが表示されるが印刷されないというオプションが追加されました。この新しいコントロールは、WIPEOUT[ワイプアウト]コマンドの[フレーム(F)]オプションを使用するか、新しいシステム変数 WIPEOUTFRAME に直接アクセスして設定できます。

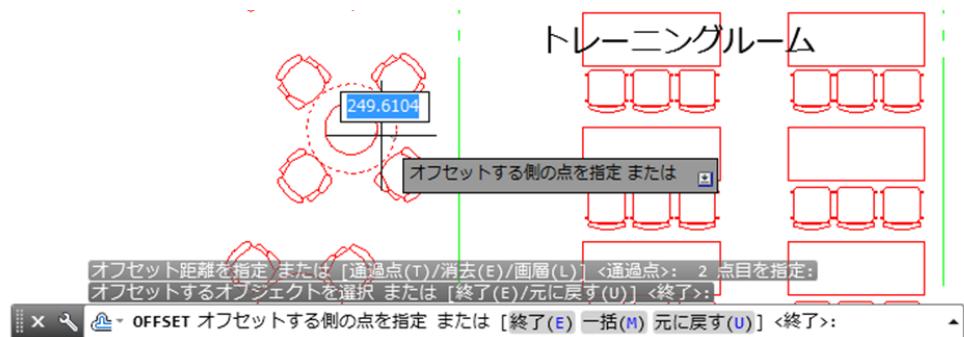


ポリライン

新しいシステム変数 PLINEREVERSEWIDTHS を使用すると、今までより柔軟にポリラインの方向を反転できます。システム変数 PLINEREVERSEWIDTHS を 0 (ゼロ)に設定して REVERSE[方向反転]コマンドまたは PEDIT[ポリライン編集]コマンドの[反転(R)]オプションを使用すると、ポリラインの始点と終点が反転されます。ただし、セグメントの幅が指定されている場合は、影響しません。このシステム変数を 1 に設定すると、ポリラインの始点と終点は反転され、セグメントの幅は逆方向の頂点に適用されます。

オフセットのプレビュー

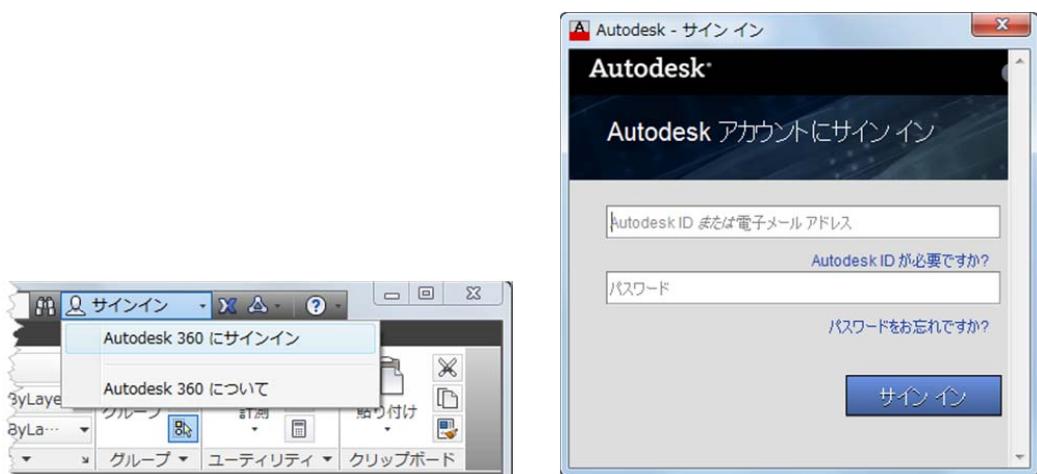
OFFSET[オフセット]コマンドの使用時、コマンドを終了する前に、オフセット結果のプレビューが自動的に表示されるようになりました。たとえば、オフセット距離を指定した後、カーソルを元のオブジェクトのどちらかの側にドラッグすると、オフセットオブジェクトが表示されます。同様に、[通過点(T)]オプションを使用した場合は、通過点を指定するためにカーソルをドラッグすると、結果となるオブジェクトが動的に表示されます。



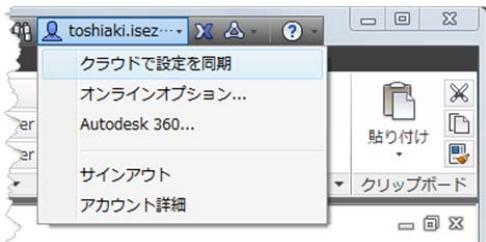
コミュニケーション

Autodesk 360 の接続性

AutoCAD 2013 では、オンラインでのファイル共有やカスタマイズ ファイルの同期等の目的で、Autodesk 360 に直接接続できます。Autodesk ID を使用して、[情報センター]ツールバーから Autodesk 360 にサインインできます。アカウントを持っていない場合は、無償で Autodesk ID を作成できます。



サインインすると、ユーザ名と各種のツールがドロップダウンメニューに表示されます。このメニューには、クラウドへのユーザ設定の同期、オンラインオプションの指定、Autodesk 360 へのアクセス、サインアウト、アカウント設定の管理などのオプションがあります。



Autodesk 360 に初めてアクセスした際には、ユーザの設計データおよびカスタム設定をクラウドに同期させる既定のクラウド設定を指定することができます。図面や設定を保存するたびにローカル設計データの暗号化されたコピーをクラウドアカウントに自動的に保存するか、指定したドキュメントのみを保存するかを選択できます。どちらの場合も、個々の図面の動作を、既定の動作に優先させることができます。AutoCAD から クラウドに図面をアップロードすると、外部参照や他の従属ファイルもアップロードに自動的に含まれます。

AutoCAD の外観、プロファイル、ワークスペース、オプション、サポートファイルが自動的に同期されるように設定することもできます。これにより、それらをどのコンピュータ에서도復元できるようになります。ダイアログボックスを閉じてから クラウドの既定の設定を修正する場合は、ドロップダウンメニューの[オンラインオプション]および[オンライン]リボンタブを使用してこれらの設定にアクセスできます。

Autodesk 360 の機能を使用するための各種ツールは、[オンライン]リボンタブから使用できます。



オンライン ドキュメント

Autodesk 360

新しい Autodesk 360 ツールは、Autodesk 360 リストとフォルダを Web ブラウザに表示します。まだサインインしていない場合には、サインインを求めるプロンプトが表示されます。

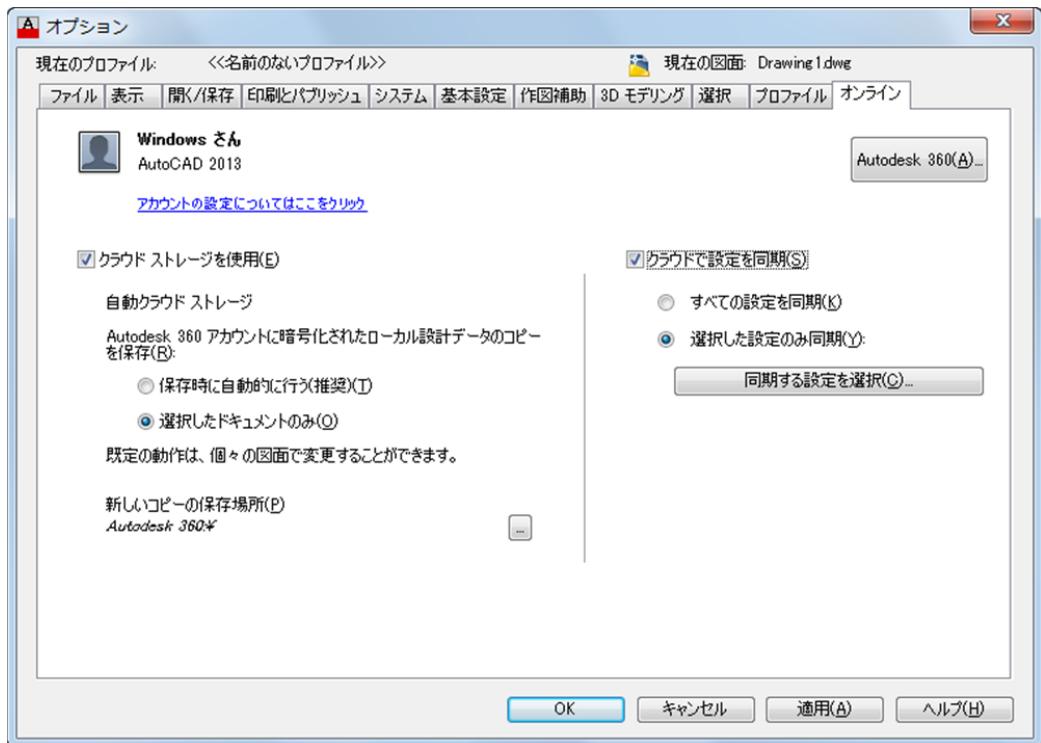
Autodesk 360 は、AutoCAD の多くのファイル選択ダイアログボックスから使用することもできます。たとえば、ファイルを開いたり、保存したり、アタッチするときに、ダイアログボックスの左側の場所リストから クラウドに直接アクセスすることができます。

オンライン オプション

[オンラインオプション]ツールを使用すると、[オプション]ダイアログボックスの[オンライン]タブに簡単にアクセスできます。ここでアカウント設定を呼び出してオンラインストレージの容量を確認したり、Autodesk 360 の運用やカスタマイズの同期をコントロールできます。

ダイアログ ボックスの左下にあるオプションを使用すると、サーバと同期されるローカル フォルダを指定できます。

フォルダは、<C:\User\%username%\AppData\Local\Autodesk\Autodesk Sync\Cloud> (Windows 7 の場合)に作成されます。



モバイルに送信

[モバイルに送信]ツールは、AutoCAD WS がインストールされていて、同じ Autodesk ID を使用してサインインしているモバイルデバイスに、プッシュ通知を送信します。プッシュ通知により、ファイルを探したり、最初に AutoCAD WS を開くことなく、現在の図面をモバイル端末で開くことができます。

選択してアップロード

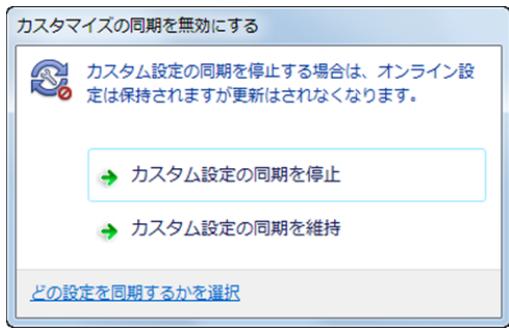
[選択してアップロード]ツールを使用すると、複数の図面を選択して、直接、Autodesk 360 にファイルをアップロードできます。

カスタマイズを同期

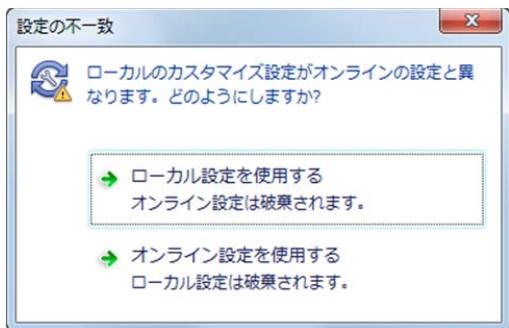
[カスタマイズを同期]を使用すると、複数のコンピュータで作業する場合にも、カスタム AutoCAD の基本設定やカスタムサポートファイルを同期して利用することができます。

設定を同期

[設定を同期]ツールを使用すると、カスタム設定の同期の開始と停止を制御できます。カスタム設定の同期を停止すると、オンライン設定は保持されますが、更新されなくなります。



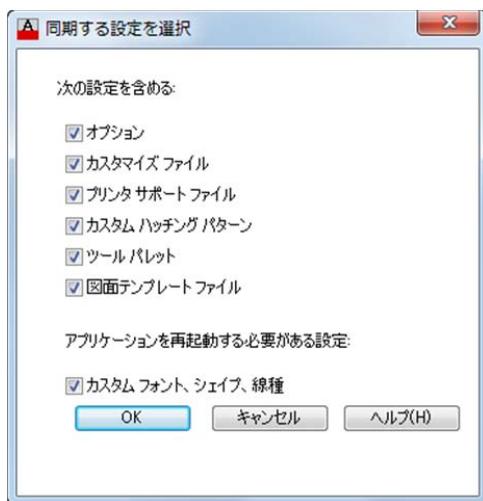
設定を同期するように選択すると、ローカル設定とクラウドの設定が比較され、ローカル設定を使用するか、オンライン設定を使用するかを求めるプロンプトが表示されます。ローカル設定を選択すると、ローカル設定がクラウドにアップロードされます。オンライン設定を選択すると、設定がクラウドからダウンロードされます。



クラウドへの設定のアップロードとダウンロード時には、画面に通知が表示されます。

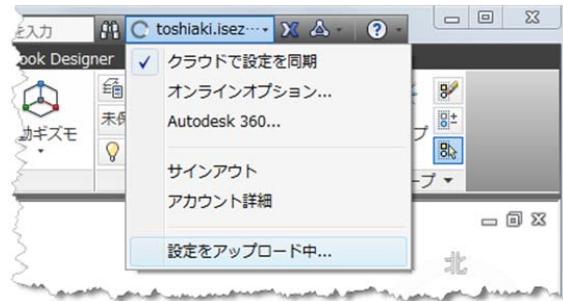
設定を選択

[設定を選択]ツールを使用して、カスタマイズの同期に含める設定項目を指定します。これには、オプション、カスタマイズファイル、プリンタサポートファイル、カスタムハッチングパターン、カスタムフォント、カスタムシェイプ、カスタム線種、ツールパレット、図面テンプレートを含めることができます。

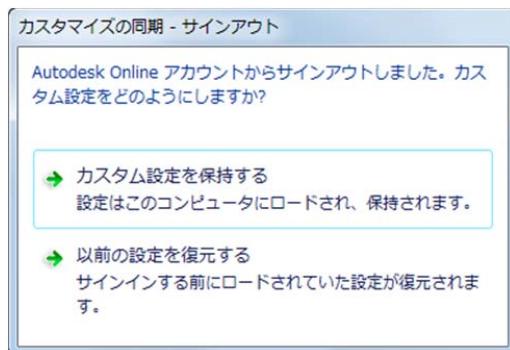


- オプションの設定には、[オプション]ダイアログ ボックスのほとんどすべてのコントロールが含まれます。
- カスタマイズの設定には、.cuix、.mnu、ワークスペース ファイルなどが含まれます。
- プリンタ サポート ファイルの設定には、.pc3、.ctb、.stb などの印刷サポート ファイルのコピーが含まれます。
- カスタム ハッチング パターン
- ツール パレットの設定には、ツール パレット ファイルおよびグループ(.atc、.aws)が含まれます。
- カスタム フォント、カスタム シェイプ、カスタム 線種の設定では、AutoCAD を再起動する必要があります。

同期を有効にしてカスタマイズの設定を変更すると、変更がアップロードされることを知らせる通知がドロップダウン メニューに表示されます。



Autodesk 360 からサイン アウトする際には、カスタム設定を保持するか、以前の設定に復元するかをダイアログ ボックスで選択できます。ダイアログ ボックスで復元を選択した場合、コンピュータからカスタム設定を削除して、以前の設定にすばやく戻すことができます。



共有、コラボレーション

ドキュメントを共有

[ドキュメントを共有]ツールを使用すると、現在のドキュメントを他のユーザと簡単に共有できます。現在のドキュメントがローカルにのみ保存されている場合、図面のコピーがクラウドにアップロードされ、共有されます。図面のオンライン コピーが既に存在する場合は、それが共有されます。共有ドキュメントのアクセス レベルをコントロールできます。

コラボレートを開始

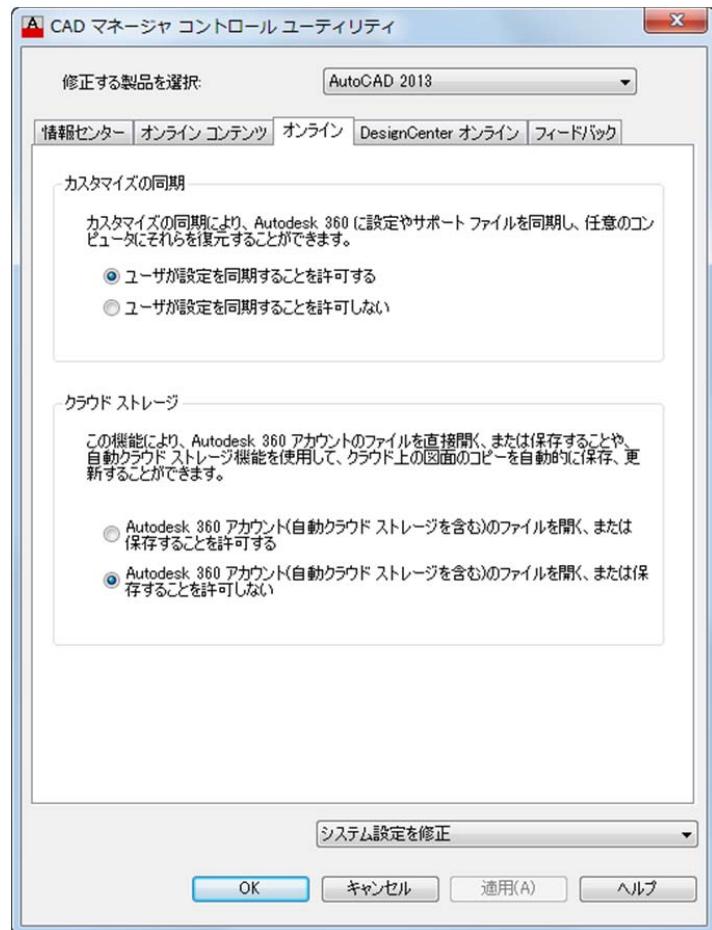
ユーザの既定のブラウザで AutoCAD WS が起動され、他の WS ユーザとのコラボレーションセッションが開始されます。

CAD マネージャ コントロール ユーティリティ

CAD マネージャ コントロール ユーティリティが更新され、Autodesk 360 の関連コントロールが追加されました。CAD マネージャ コントロール ユーティリティは、AutoCAD インストーラの [ツールとユーティリティ] オプションからインストールできます。



CAD 管理者は、CAD マネージャ コントロール ユーティリティの新しい[オンライン]タブで、Autodesk 360 とカスタマイズを同期するユーザのアクセスをコントロールできます。



オンライン レンダリング

[オンライン レンダリング]の新しいツールを使用して、AutoCAD の 3D モデルをクラウドでレンダリングできます。マテリアルの割り当て、光源と環境を設定、対象となる名前の付いたビューを作成したら、4 つの異なる品質のいずれかを指定して、3D モデルをレンダリングする準備ができます。レンダリングする 3D モデルをクラウドに送信している間も、コンピュータでの作業を継続でき、レンダリングの準備が完了すると通知されます。

オンライン レンダリング ギャラリーの参照

[オンライン レンダリング]ツールには、[レンダリング]リボン タブからアクセスできます。



常時接続

情報センターの新しいツールにより、AutoCAD コミュニティにいつでも簡単に接続できるようになりました。[最新情報]メニューにアクセスして、製品の更新のダウンロード、Autodesk Subscription センターへのログオン、AutoCAD フェイスブック ページの表示、および AutoCAD ツイッターの投稿へのフォローを行うことができます。



Content Explorer

[プラグイン]リボン タブからアクセスできる Content Explorer は、AutoCAD 2013 で更新されました。新しい機能には、基本インデックス作成(ファイル名、作成日付など)でサポートされるファイルの種類がさらに増えた点が含まれます。AutoCAD から開く、読み込む、アタッチすることができるファイルはすべて、インデックスに含められるようになります。検索結果として返されます。たとえば、ラスターイメージや PDF ファイルを名前で検索してから、開いている図面にアタッチできます。フィルタ ダイアログでは、検索対象とするファイルの種類を選択できます。



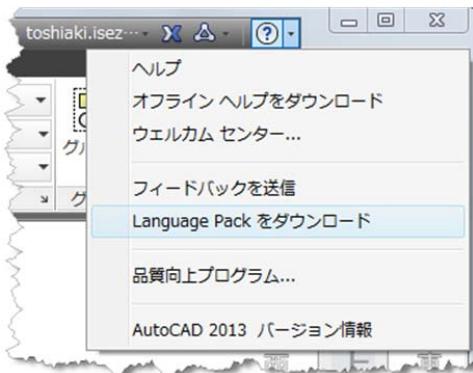
検索アルゴリズムも、より直感的な検索入力をサポートするように改善されました。特に、ワイルドカード(*)検索が改善されました。これらの改善点により、検索結果がさらに正確になります。これらの改善点の多くは、ユーザからのフィードバックに答えて追加され、ユーザ提供のサンプルでテストされました。

AutoCAD 2012 では、Content Service がインストールされているサーバマシンに接続して、大きなライブラリ フォルダからファイル/オブジェクトをすばやく検索できました。この接続能力が、Content Service がインストールされている「すべての」コンピュータを含むように拡張されました。これにより、同僚のウォッち フォルダに接続して、ピア ツー ピアのファイルおよびオブジェクト共有のためにフォルダ内のコンテンツを検索できます。ただし、これは、同僚がフォルダへのアクセスを明示的に許可している場合に限られます(Windows ベースのセキュリティおよびファイアウォール セキュリティが適用されます)。

Language Pack

AutoCAD 2013 の新しい Language Pack は、複数の言語の AutoCAD をダウンロードして使用するプロセスを容易にします。AutoCAD の各言語のローカライズ バージョンを言語ごとにインストールする代わりに、1 つの言語の製品をフルインストールしてから、Language Pack を使用して他の言語を追加することで、第 2 言語のためのダウンロードおよびインストール量が少なくなりました。

Language Pack は、アプリケーションの右上コーナーにある[ヘルプ]メニューからダウンロードできます。



インストールされた各 Language Pack によって、言語別の AutoCAD 起動アイコンとメニュー項目が、Windows デスクトップと[スタート]メニューに追加されます。

図面ファイル形式

AutoCAD 2013 では、新しいファイル形式が導入され、サムネイル プレビュー ファイル形式が変更されたほか、グラフィックスのキャッシュに関する新しいコントロールが追加されました。

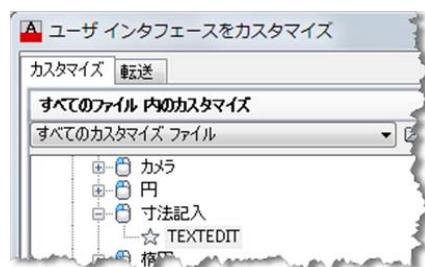
新しい AutoCAD 2013 DWG ファイル形式のサムネイル プレビューは、より小さなファイルサイズでより高品質なサムネイル プレビューを提供する PNG イメージとして格納されるようになりました。イメージの解像度は、今までどおりシステム変数 THUMBSIZE でコントロールします。ただし、最大有効値が 2 から 8 に引き上げられています。図面にサムネイル プレビューを含めたくない場合には、今までどおりシステム変数 RASTERPREVIEW を使用してプレビューを無効にもできます。UPDATEHUMBSNOW コマンドおよびシステム変数 UPDATETHUMBNAIL は不要になったため、AutoCAD 2013 から削除されています。

3D ソリッドを含む図面を新しい AutoCAD 2013 ファイル形式で保存すると、グラフィックス キャッシュ ファイルが、ユーザの AppData フォルダの下の "GraphicsCache" という名前のフォルダに自動的に保存されます。キャッシュ ファイルは、新しい 2 つのシステム変数 CACHEMAXTOTALSIZE と CACHEMAXFILES を使用して管理できます。

カスタマイズ

ダブルクリック アクション

[ユーザ インタフェースをカスタマイズ]ダイアログ ボックスでは、寸法オブジェクトに対するダブルクリック アクションが更新されて、エイリアス TEDIT ではなく TEXTEDIT[文字編集]コマンドが起動されるようになりました。



Autodesk Exchange アプリケーション

Autodesk Exchange が更新され、生産性および AutoCAD の機能の向上に役立つダウンロード可能なアプリケーションとコンテンツに直接アクセスできるようになりました。無償ツールや市販ツールなど、広範囲の各種ツールから選択できます。Autodesk Exchange には、情報センターの[Exchange]ボタン、[ウェルカム センター]からアクセスできます。



Autodesk、AutoCAD、Autodesk Inventor、Content Explorer、DWG、Inventorは、米国および／またはその他の国々における、Autodesk, Inc. その子会社、関連会社の登録商標または商標です。その他のすべてのブランド名、製品名、または商標は、それぞれの所有者に帰属します。オートデスクは、通知を行うことなくいつでも該当製品の提供および機能を変更する権利を留保し、本書中の誤植または図表の誤りについて責任を負いません。

© 2012 Autodesk, Inc. All rights reserved.